

## 点検・評価シート

### 1. 教育委員会の活動

自己評価	A
------	---

1. 教育委員会の活動	担当	教育委員会
<p>評価理由</p>	<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地教行法）においては、教育委員会の責任と職務の明確化がなされている。</p> <p>まず、「基本理念」として、「地方公共団体における教育行政は、教育基本法の趣旨にのっとり、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう、国との適切な役割分担及び相互の協力の下、公正かつ適正に行わなければならない。」と示されている次に、「服務等」について、「委員は、その職務の遂行にあたっては、自らが当該地方公共団体の教育行政の運営について負う重要な責任を自覚するとともに、第1条の二に規定する基本理念に則して当該地方公共団体の教育行政の運営が行われるよう意を用いなければならない。」と定められた。</p> <p>教育委員会制度について、地教行法等からその概要をまとめると次のとおりである。</p> <p>教育委員会は都道府県及び市町村等におかれる合議制の執行機関で、創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめ、教育、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく上で、教育委員会制度は重要な役割を担っている。</p> <p>「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成27年4月1日から施行され、津山市においては平成28年4月1日から新制度に移行し、4名の教育委員（非常勤の特別職）と教育長（常勤の特別職）をもって組織している。教育委員会は合議制の執行機関であり、会議を通じて意志決定をする。</p> <p>教育長は、教育委員会の会議を招集し、かつ主宰し、教育委員会を代表するものとされ、会議の議事は出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、教育長の決するところによる。教育長名で教育委員会の権限に属する法律行為をなしうるが、教育長単独の意志ではなく、あくまで合議体としての教育委員会の決定により行われるものである。</p>	<p>教育委員会は、多岐にわたる教育事務のすべてを処理するものではなく、会議において教育事務の管理執行に関し方針、重要事項を決定し、それを具体的に執行するのは教育長の役割である。</p> <p>このような役割分担を前提として、教育委員会規則に掲げる10項目を除き、その権限に属する教育事務を教育長に委任することとしている。</p> <p>会議は、原則として公開であるが、人事に関する事項、その他の事項について、教育長または委員の発議により、出席委員の3分の2以上の多数で議決したときは、会議を公開しないことができる。会議は毎月1回定例会を招集し、教育長が召集の必要を認めるとき等、必要に応じて臨時会等を招集する。これは、地域の様々な行政課題に迅速かつ的確に対応できるようにするために、定例会だけでなく、臨時会や委員協議会などの方式を積極的に活用し、開催日時を工夫することが重要なためである。</p> <p>上記のことを踏まえ、下記の（ア）から（カ）の項目について総合的に評価した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（ア）教育委員会の会議の運営改善について <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会会議の開催状況や教育委員会会議の運営上の工夫</li> </ul> </li> <li>（イ）教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信について <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会会議の傍聴者の状況や会議録の公開、広報・公聴活動の状況</li> </ul> </li> <li>（ウ）教育委員会と事務局との連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会と事務局との連携</li> </ul> </li> <li>（エ）教育委員会と市長との連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会と市長との教育懇談会（総合教育会議含む）の実施</li> </ul> </li> <li>（オ）教育委員の自己研鑽について <ul style="list-style-type: none"> <li>研修会への参加状況</li> </ul> </li> <li>（カ）学校及び教育施設に対する支援・条件整備について <ul style="list-style-type: none"> <li>学校訪問や所管教育施設の訪問</li> </ul> </li> </ul>

<p>今後の対応の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、教育委員は、職務の遂行にあたり、教育行政の運営について自らの責任を自覚し、教育の機会均等、教育水準の維持向上及び地域の実情に応じた教育の振興が図られるよう公正かつ適正に行うよう心がけることが大切である。</li> <li>また、教育委員会として創造的で人間性豊かな人材を育成するため、生涯学習の推進をはじめとした、文化、スポーツの振興など幅広い分野にわたる教育行政を一体的に推進していく。</li> <li>・本年度は、平成 29 年 2 月に策定した「津山市教育振興基本計画（第 2 期）」（平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年間計画）の初年度となり、学校教育や社会教育、生涯学習、スポーツ、文化など 9 領域の基本的な施策、35 項目にわたる重点取組を掲げている。計画の実現に向けて、定期的な点検と進行管理を毎年度行うこととなっており、達成率の低い項目への取組を、中長期的視点に立ちながら、評価・検証を行っていく。</li> <li>・教育委員会の活動を地域住民に広く的確に伝え、住民の意向を把握し、それを施策に反映させる体制を整備することが重要である。情報提供などの広報活動をさらに推進するため、ホームページや発行紙面の充実を図っていくことが必要である。</li> <li>・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成 27 年 4 月 1 日から施行された。教育委員長と教育長が一本化され、教育長が代表となったことで、教育委員会の権限と責任が明確となった。津山市では平成 28 年度から新制度に移行しており、教育長のもとで引き続き市民に分かりやすい教育委員会の運営を目指していく。</li> <li>・教育の中立性、継続性・安定性の確保を引き続き維持し、合議制の執行機関である教育委員会は、社会通念や市民の声を適切に反映しながら、教育長と教育委員により意思決定を行っていく。</li> <li>・特に、市長の開催する総合教育会議においては、教育に関する大綱、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策、児童、生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置などについて、執行機関として市長と慎重な協議、調整を行うとともに、一層の連携を図っていく。</li> </ul>
<p>自己評価</p>	<p>A</p>

平成 29 年度教育委員会の活動状況

( 1 ) 教育委員

氏 名	役 職	委員就任年月日	現 任 期
はらだ よしかず 原田 良一	教育長	平成 28 年 4 月 1 日	平成 28 年 4 月 1 日 ~ 平成 31 年 3 月 31 日 (平成 30 年 3 月 31 日退任)
てらもと たかゆき 寺元 貴幸	教育長職務代理者 (平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日)	平成 26 年 12 月 25 日	平成 26 年 12 月 25 日 ~ 平成 30 年 12 月 24 日
もり なおみ 森 尚美	委 員	平成 24 年 10 月 1 日	平成 24 年 10 月 1 日 ~ 平成 28 年 9 月 30 日 平成 28 年 10 月 1 日 ~ 平成 32 年 9 月 30 日
ながえ まりこ 長江 真理子	委 員	平成 26 年 12 月 25 日	平成 26 年 12 月 25 日 ~ 平成 30 年 12 月 24 日
おじま くにあき 尾島 邦昭	委 員	平成 29 年 4 月 1 日	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 33 年 3 月 31 日

## (2) 教育委員会会議の開催状況

(定例会・・・「定」、臨時会・・・「臨」)

月 日	定・臨	教育長等の報告	議 案	協 議	報 告	その他
4月27日	定	2	9	0	8	1
5月25日	定	0	8	5	3	3
6月29日	定	0	7	0	5	2
7月27日	定	0	4	1	1	4
8月 4日	臨	0	1	0	0	0
8月24日	定	0	4	3	0	4
9月28日	定	2	4	0	2	5
10月26日	定	0	3	0	3	5
11月22日	定	0	2	1	3	4
12月21日	定	0	1	0	6	0
12月21日	臨	0	1	0	0	0
1月25日	定	0	1	0	2	2
2月22日	定	0	2	6	5	2
3月 1日	臨	0	1	0	0	0
3月13日	臨	0	1	0	0	0
3月22日	定	0	4	0	3	2
合 計		4	53	16	41	34

定例会12回、臨時会4回開催

## (3) 教育長代決処理案件

(非)は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月27日	津山市生涯学習推進本部の設置及び運営に関する要綱について 津山市生涯学習推進本部の設置及び運営に関する要綱を廃止する要綱について
9月28日	審議会等委員の休職措置について(非) 審議会等委員の休職措置について(非)

## (4) 教育委員会議決案件

(非)は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
4月27日	津山市公立学校の事務長の命免について 校務を分担する主任等の命免について 津山市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱及び任命について 津山市特別支援教育推進センター職員の委嘱及び解嘱について 津山市社会教育委員の委嘱及び解嘱について 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市青少年育成指導委員の委嘱及び解嘱について 津山市旧苅田家住宅保存修理活用検討委員会委員の委嘱について 津山洋学資料館協議会委員の委嘱及び解嘱について

5月25日	津山市学校 ICT 環境整備計画の策定について 津山市教育支援委員会委員の委嘱について 平成29年度津山市立小・中学校 学校評議員の委嘱について 津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市青少年育成指導委員の委嘱及び解嘱について 津山市公民館運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 津山市スポーツ振興基本計画に関する諮問書について
6月29日	「平成29年度全国及び岡山県学力・学習状況調査」の調査結果の公表について 優良実践校の推薦について（非） 津山市公民館運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について 津山市歴史文化基本構想等審議会規則について 津山市史編さん委員会委員の委嘱について 津山市城東伝統的建造物群保存地区保存計画の変更について
7月27日	津山市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について 津山市立図書館協議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市指定文化財の指定解除について 津山市指定文化財の一部指定解除について
8月4日	平成30年度教科用図書採択について（非）
8月24日	平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書について 津山市教育支援委員会教育支援専門員の委嘱及び任命について 津山市青少年育成指導委員の委嘱及び解嘱について 津山市歴史文化基本構想等審議会委員の委嘱について
9月28日	旧妹尾銀行林田支店条例施行規則について 津山市文化振興事業基金運営委員会委員の委嘱について 津山文化センターの休館について 津山郷土博物館の休館について
10月26日	平成29年度津山市立小・中学校 学校評議員の委嘱及び解嘱について 津山市公民館運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市指定管理者審査委員会（教育委員会生涯学習部）委員の委嘱及び任命について
11月22日	平成29年度末津山市立小・中学校教職員人事異動方針について 平成30年度津山市立図書館の休館日について
12月21日	津山市教育情報セキュリティ要綱について
12月21日	津山市立小学校教員人事異動について（非）
1月25日	津山市教育相談センター鶴山塾運営委員会委員の委嘱及び解嘱について
2月22日	津山市青少年育成センター運営審議会委員の委嘱及び解嘱について 津山市スポーツ推進基本計画の策定について
3月1日	教育長の辞職の同意について（非）
3月13日	平成29年度末津山市立学校教職員人事異動について（非）
3月22日	平成30年度教育行政重点施策の策定について 津山市青少年育成指導委員の委嘱について 津山市歴史文化基本構想等の策定に関する諮問書について 津山市スポーツ推進委員の委嘱について

## ( 5 ) 教育委員会協議案件

( 非 ) は非公開とした案件

月 日	議 決 案 件
5月25日	喬松小学校校舎大規模改修建築工事 工事請負契約について(非) 中正小学校校舎大規模改修建築工事 工事請負契約について(非) 津山東中学校屋内運動場大規模改修工事 工事請負契約について(非) 平成29年度6月補正予算について(非) 津山市執行機関の付属機関設置条例の一部を改正する条例について
7月27日	教科書採択について
8月24日	平成29年度9月補正予算について 津山市公民館条例の一部を改正する条例について 旧妹尾銀行林田支店条例について
11月22日	平成29年度12月補正予算について
2月22日	平成29年度3月補正予算について 平成30年度当初予算について 津山市公民館条例の一部を改正する条例について 津山文化センター耐震補強及び大規模改修工事 工事請負契約について 津山市西エリア幼稚園・二宮公民館複合施設新築工事 工事請負契約について 津山市東エリア幼稚園新築建築工事 工事請負契約について

## ( 6 ) 教育委員会傍聴者の状況

月 日	内 容
11月22日	11月定例教育委員会 傍聴者1名

## ( 7 ) 教育委員協議会の開催状況

月 日	協議題数	月 日	協議題数	月 日	協議題数
4月27日	3	5月25日	3	6月29日	1
7月27日	3	8月24日	2	9月28日	1
10月26日	2	11月22日	2	12月21日	1
1月25日	4	2月22日	2	3月22日	1

12回開催

## ( 8 ) 各懇談会

月 日	内 容
7月28日	市内小中学校PTA会長・教育長の懇談会
8月24日	市長と教育委員会の懇談会
1月18日	津山市小中学校校長・副校長・教頭 教育懇談会

( 9 ) 教育委員会会議以外の活動状況

学校訪問

月 日	訪 問 校 及 び 訪 問 施 設	
	小・中学校	小・中学校以外の施設
5月29日	院庄小学校、誠道小学校、喬松小学校、 一宮小学校	
6月 6日	北陵中学校、弥生小学校、東小学校、 林田小学校	津山郷土博物館・京橋門
6月14日	高野小学校、広野小学校、勝北中学校、 広戸小学校	ターゲットバードゴルフ場
6月19日	弥生小学校、南小学校、津山西中学校（通級 指導教室含む）	城下町歴史館
6月26日	河辺小学校、津山東中学校、清泉小学校	清泉公民館、弥生の里文化財セ ンター・弥生住居跡

小学校13校、中学校4校、小・中学校以外の施設5施設

研究会・発表会

月 日	会 場	事 業 名
10月13日	鶴山幼稚園	津山市幼稚園教育研究大会 「友達とかかわり合いながら遊び込む子どもを育てる」 ～合同保育を通して～
11月16日 ～17日	ベルフォーレ津山	津山市小・中学校音楽研究演奏会

記念式・行事等

月 日	行 事 名
4月 1日	西東三鬼賞表彰式
4月16日	第25回津山加茂郷フルマラソン全国大会
7月29日	津山市こどもまつり
10月 8日	第46回つやま市民スポーツ祭
10月17日	第23回津山市立幼稚園合同保育 ワイワイまつり
1月 7日	第68回津山市成人を祝う会
3月31日	西東三鬼賞表彰式

入学(園)式・卒業式

月 日	内 容
4月10日	市内27小学校入学式
4月11日	市内8中学校入学式
4月12日	市内12幼稚園入園式
3月13日	市内8中学校卒業式
3月15日	市内12幼稚園卒業式
3月16日	市内27小学校卒業式

視察

月 日	視 察 内 容
1月30日 ～ 31日	岡山県都市教育委員会教育長協議会教育行政視察 ・福岡県飯塚市（飯塚市立飯塚小学校）、福岡市早良区（福岡市博物館） 「21世紀型能力を育む教育について」
2月 6日	教育委員行政視察 ・岡山県総社市（総社市教育委員会、総社市立総社西中学校） 「学力向上の取り組みについて」

会議・総会・研修会（教育長会議を含む）

月 日	会議・研修名	場 所
4月 6日	美作地区市町村教育委員会4月定例教育長会議	津山教育事務所
4月19日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第1回定例会	津山市役所
4月26日	平成29年度教育問題懇談会	岡山県総合教育センター （吉備中央町）
5月 8日	市町村教育委員会教育長等人権教育連絡会	岡山県総合教育センター （吉備中央町）
5月 9日	美作地区市町村教育委員会5月定例教育長会議	津山教育事務所
5月18日 ～ 19日	全国都市教育長協議会定期総会並びに研究大会	なら100年会館（奈良市）
5月30日	第1回津山市総合教育会議	津山市役所
6月 6日	美作地区市町村教育委員会6月定例教育長会議	津山教育事務所
6月 5日 ～ 27日	平成29年6月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
6月23日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会総会及び教育委員研修会	津山市勝北公民館
7月 6日	美作地区市町村教育委員会7月定例教育長会議	勝央町公民館
7月11日	岡山県市町村教育委員会連絡協議会総会	くらしき健康福祉プラザ
7月20日 ～ 21日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会	東広島芸術文化ホールくらしき他（東広島市）
7月21日	岡山県都市教育委員会教育長協議会臨時会	サンビーチ岡山
8月 9日	津山市学校教育研究センター全員研修会	ベルフォーレ津山
8月28日 ～ 9月26日	平成29年9月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
9月 6日	美作地区市町村教育委員会9月定例教育長会議	津山教育事務所
9月26日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会役員会	津山教育事務所
10月 6日	美作地区市町村教育委員会10月定例教育長会議	奈義町文化センター
10月16日	県教育長と市町村教育長との意見交換会	岡山県庁
10月17日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第2回定例会	瀬戸内市保健福祉センター
11月 1日	美作地区市町村教育委員会11月定例教育長会議	津山教育事務所

11月7日	岡山市町村教育委員会連絡協議会研修会	ライフパーク倉敷
11月14日	美作地区市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	鏡野町ペスタロッヂ館
11月24日	第2回津山市総合教育会議	津山市役所
11月27日 ~12月19日	平成29年12月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
11月30日	美作地区市町村教育委員会12月定例教育長会議	津山教育事務所
1月10日	美作地区市町村教育委員会1月定例教育長会議	津山教育事務所
1月24日	岡山県都市教育委員会教育長協議会第3回定例会	赤磐市立中央図書館
2月8日	美作地区市町村教育委員会2月定例教育長会議	津山教育事務所
2月26日 ~3月22日	平成30年3月津山市議会定例会 本会議・総務文教委員会	津山市議会
3月7日	美作地区市町村教育委員会3月定例教育長会議	津山教育事務所

#### 定期発行冊子等

発行名	発行担当課	内容
平成29年度教育行政重点施策	教育総務課	教育委員会の基本方針、具体的施策等を紹介。年1回発行。
平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書の点検・評価報告書	教育総務課	教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況を点検・評価したもの。年1回発行。
津山市教育委員会広報誌 つやま市教委かわら版	教育総務課	教育委員会や教育関係施設の活動を紹介したもの。年3回発行。
教育相談だよりNOW	生涯学習課 (鶴山塾)	鶴山塾の教育相談状況などを紹介したもの。(教職員向け)年1回発行。
年報津山弥生の里	文化課 (弥生の里文化財センター)	弥生の里文化財センターの事業概要等を紹介したもの。年1回発行。
津山城だより	文化課 (弥生の里文化財センター)	津山城の調査・研究を紹介したもの。年1回発行。
津山スポーツだより	スポーツ課	施設の行事や教室案内等を紹介したもの。月1回発行。
津山市幼稚園 未就園児対象 園開放の紹介	こども課	津山市内の未就園児を対象にした園開放について、学期ごとに実施日や内容を紹介したもの。年3回発行。
特別展図録	文化課 (郷土博物館)	学芸員の研究による展覧会の記録を紹介したもの。年1回発行。
津山郷土博物館年報	文化課 (郷土博物館)	博物館活動の記録を紹介したもの。年1回発行。

津山郷土博物館だより 津博	文化課 (郷土博物館)	イベントや講座、研究ノート等、博物館情報を紹介したもの。年4回発行。
津山松平藩町奉行日記	文化課 (郷土博物館)	博物館所蔵資料を紹介したもの。年1回発行。
企画展図録	文化課 (洋学資料館)	年4回の企画展のうち、秋季企画展の展示資料を紹介したもの。年2回発行。
津山洋学資料館年報	文化課 (洋学資料館)	洋学資料館の活動を紹介したもの。年1回発行。
洋学資料館(機関誌)	文化課 (洋学資料館)	企画展や講演会、資料解説等、洋学資料館の情報を紹介したもの。年2回発行。
洋学研究誌 一滴	文化課 (洋学資料館)	研究論文、資料、企画展等を紹介したもの。年1回発行。
津山市史だより	津山市史編さん室	会議等の活動記録、研究ノート等、編さん事業に関する情報を紹介したもの。年3回発行。
津山市史研究	津山市史編さん室	市史編さんの調査研究における最新の成果を紹介するもの。年1回発行。
生涯学習通信「まなびい」	生涯学習課	生涯学習に関する講座や公民館活動等を紹介したもの。年1回発行。
中央公民館だより	生涯学習課 (中央公民館)	中央公民館の活動状況等を紹介したもの。年8回発行。
津山市立図書館だより	図書館	施設利用案内やイベント等を紹介したもの。月1回発行。
津山市立図書館概要	図書館	図書館の統計や活動の記録を紹介したもの。年1回発行。

平成29年度外部評価者(本報告書の作成に係る学識経験者)

氏名	所属等
宮本 有二	元小学校長
今井 元子	元行政職員



## 2.教育委員会が管理・執行する事務

自己評価	A
------	---

2. 教育委員会が管理・執行する事務	担当	教育委員会
評価理由	<p>教育委員会の「職務権限」については、地教行法第21条により、19項目(省略)について管理し、及び執行すると定めている。</p> <p>次に、「事務の委任等」については、地教行法第25条により、「教育委員会は、教育委員会規則で定めるところにより、その権限に属する事務の一部を教育長に委任し、又は教育長をして臨時に代理させることができる。」と定められている。</p> <p>また、津山市教育委員会教育長に対する事務委任規則では、次のように定めている。</p> <p>「第1条 この規則は、地教行法第25条第1項の規定に基づき、津山市教育委員会(以下「教育委員会」という。)の権限に属する事務の一部を教育長に委任することに関し必要な事項を定めることを目的とする。</p> <p>第2条 教育委員会は、次に掲げる事項を除きその権限に属する教育事務を教育長に委任する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。</li> <li>(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。</li> <li>(3) 教育委員会の所管に属する学校その他教育機関の設置及び廃止に関すること。</li> <li>(4) 教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の職員の任免その他の人事に関すること。</li> <li>(5) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に関すること。</li> <li>(6) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。</li> <li>(7) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。</li> <li>(8) 学令児童・生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。</li> <li>(9) 教科用図書採択に関する一般方針を定めること。</li> <li>(10) 市重要文化財を指定及び解除すること。</li> </ol> <p>2 教育長は、前項の規定にかかわらず委任された事務について、重要かつ異例の事態が生じたときは、教育委員会の決定によらなければならない。</p> <p>3 教育長において特に緊急を要するため会議を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認める事項は、第1項の規定にかかわらずこれを教育長において代決処理することができる。この場合教育長は、次回の教育委員会に報告し承認を得なければならない。」</p> <p>教育委員会事務局は、学校教育部と生涯学習部の2部体制で実施しており、就学前教育については、幼稚園・保育所(園)の一体的運用など国の動向を見定める必要から、引き続き、市長部局であるこども保健部職員による補助執行を行っている。また、伝統的建造物群保存地区の保存に関する事務については、都市建設部職員により同じく補助執行を行っている。</p> <p>この執行体制により、所管の事務事業を適切に実施させるとともに、定例会議の開催を通じて、あるいは必要に応じて臨時会を招集し、事務の執行状況について適宜協議や報告を受けている。</p> <p>また、事務の「専決」については、同規則第3条により次のとおり定められている。</p> <p>「第3条 前条により補助執行させる事務の執行において、補助執行職員は、次に掲げる事項を除き、津山市事務決裁規程(以下「市長部局の規程」という)の規定により、所管に係わる事項を専決するものとする。この場合において、市長部局の規程に規定されていない事項については、津山市教育委員会事務決裁規程(以下「教育委員会の規程」という)の規定を準用し、専決できるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教育に関する事務の管理及び執行の基本的な方針に関すること。</li> <li>(2) 教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定又は改廃に関すること。</li> <li>(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。</li> <li>(4) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価等に関すること。</li> <li>(5) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること。</li> <li>(6) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること。</li> </ol>	

	<p>2 補助執行職員は、前項の規定により専決する事務が次の各号のいずれかに該当するときは、同項の規程にかかわらず、これを教育委員会に付議しなければならない。</p> <p>(1) 重要かつ異例に属すること。</p> <p>(2) 疑義があるとき、又は紛議を生じ、若しくは生ずるおそれがあるとき。」と定めている。</p> <p>以上を踏まえ、教育委員会が管理・執行する事務について、(1) から (13) の具体的な施策を評価項目として設定し、評価することとした。</p>
今後の対応の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市の教育の充実・発展のため、各分野、項目に関して適切に実行、推進する。</li> <li>・平成 28 年度に最終年度を迎えた津山市教育振興基本計画(平成 24 年 2 月策定)の成果や課題を踏まえつつ、平成 29 年 2 月に津山市教育振興基本計画(第 2 期)(平成 29 年度～平成 33 年度)を策定している。</li> <li>・今年度は、その計画の最初の年度となり、当初計画から引き続き、「つなぐ力を育む」を教育理念に、前計画からの継続課題や今後の教育環境の変化に対応した施策を確実に推進していくことが必要である。</li> <li>・特に、学校教育の充実及び学校力の向上のために、必要な具体的施策をより重点化した取組として「学校力向上推進プラン(第 2 期)」を策定し、学校・家庭・地域と教育委員会が連携を取りながら教育行政を推進し、子ども達の「確かな学力」へとつないでいく。</li> <li>・生涯学習、文化、市民スポーツの分野では、それぞれの世代やニーズにあった学習活動等を提供することが重要である。その成果をまちづくりに活かしていくことが必要である。</li> <li>・「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が平成 27 年 4 月 1 日から施行された。教育委員長と教育長が一本化され、教育長が代表となったことで、教育委員会の権限と責任が明確となった。津山市では平成 28 年度から新制度に移行している。</li> <li>・新制度においても、教育委員会は引き続き合議制の執行機関であり、レイマンコントロールの趣旨に基づき、社会通念や市民の声を適切に反映しながら、教育の中立性、継続性・安定性の確保を引き続き堅持し、教育長と教育委員により意思決定を行っていく。</li> </ul>
自己評価	A

具体的な施策	(1) 教育行政の運営に関する基本方針を定めること	担当	教育委員会
実施結果	<p>津山市教育委員会は学校教育部と生涯学習部の 2 部制のもと、学校教育部には教育総務、学校施設、学校教育、保健給食の各課が、生涯学習部には生涯学習、図書館、文化、スポーツの各課が所属し、連携しながら、教育行政の一層の充実が図られてきている。</p> <p>就学前教育については、市長部局のこども保健部において、幼稚園・保育所(園)の一体的な運用を進めるため、引き続き補助執行を行っており、小学校へスムーズにつながるための関係者会議を行うなど、連携をとりながら進めてきた。</p> <p>また、平成 29 年 2 月に策定した「津山市教育振興基本計画(第 2 期)」では、「つなぐ力を育む～あなたとわたし、学校・家庭・地域、そして世代を超えて～」を、前計画から引き続き教育基本理念として継承し、9 領域 35 の重点取組を設定している。</p> <p>平成 29 年度は、第 2 期計画に基づき、各課による諸施策の実施等、適正な執行がなされている。</p> <p>総合教育会議については 2 回の会議が開催され、教育基本理念等が津山市の教育大綱に決定されるなど、教育委員会と市長部局が課題を共有し、津山市教育の充実・発展が図られた。</p>		
自己評価	A		

具体的な施策	(2) 教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会の活動状況(4)(5)案件参照。  条例(協議案件)・・・制定1件、改正3件、廃止0件  規則等・・・制定1件、改正6件、廃止0件</li> </ul>		
自己評価	A		

具体的な施策	(3) 教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の設置、廃止に関する事	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当事項なし</li> </ul>		

具体的な施策	(4) 教育委員会事務局及び教育機関の職員の任免その他の人事に関する事	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員の任免その他の内申</li> </ul>		
自己評価	A		

具体的な施策	(5) 県費負担に係る校長の任免その他の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>校長の任免その他の人事についての内申</li> </ul>		
自己評価	A		

具体的な施策	(6) 県費負担に係る教職員の人事の内申に関する事	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教頭・教諭等の人事についての内申</li> </ul>		
自己評価	A		

具体的な施策	(7) 教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ること	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育予算その他市議会の議決を経るべき事件について意見を申し出ることについて審議した。</li> </ul>		
自己評価	A		

具体的な施策	(8) 法令等で定められた諮問機関の委員を委嘱すること	担当	教育委員会
実施結果	・18の委員会(審議会)の委員を委嘱及び任命した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(9) 学齢児童・生徒の就学すべき学校区域を設定し又はこれを変更すること	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項なし		

具体的な施策	(10) 教科用図書採択に関する一般方針を定めること	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項なし		

具体的な施策	(11) 市重要文化財を指定及び解除すること	担当	教育委員会
実施結果	・津山市指定重要文化財(史跡 1件、建造物の一部 1件)2件の指定を解除した。		
自己評価	A		

具体的な施策	(12) 請願、陳情、訴訟及び異議の申立てに関すること	担当	教育委員会
実施結果	・該当事項なし		

具体的な施策	(13) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等に関すること	担当	教育委員会
実施結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点検・評価シートにより、4項目について実施した。</li> <li>・教育振興基本計画における重点取組の進捗状況を記載した。</li> <li>・学識経験者を選定し、点検・評価の総評を依頼した。</li> <li>・点検・評価 達成度一覧により、点検評価項目ごとの達成状況を明示した。</li> <li>・教育委員会の活動状況を項目ごとにまとめた。</li> </ul>		
自己評価	A		



### 3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

〔教育委員会の権限に属する事務のうち市長部局の職員に  
補助執行させる事務を含む(幼児教育、文化財の保存・活用)〕

自己評価	B
------	---

1 個の確立とつなぐ力を育む【幼児教育】	自己評価	A
----------------------	------	---

(1) 幼児教育の充実	自己評価	A
-------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 教育の質の向上と環境整備		担当課	こども課
施策の概要	<p>就学教育保育の質の向上に向けて、公立・私立保育園（所）・幼稚園合同研修会として、「特別支援教育」に関する研修会、1・2・3年目研修、保幼小連携研修会、教育要領・保育指針の改定に伴う研修会、危機管理に関する研修会等を実施した。保育教育現場のニーズに対応した内容の研修を企画し、多数の出席により熱心に研修を深めることができた。</p> <p>特別支援教育の充実に向け、実態把握に努め、津山市特別支援教育センター通級指導教室幼児部等の関係機関と連携して、年4回の特別支援スキルUP研修会を開催して特別支援に関する専門性の向上に努めた。</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育・要領の改訂に伴い、平成30年度全面実施に向けて、講師による研修会を開催して、改訂内容を学び合い、これから求められる就学前教育・保育のあり方について知り得ることができた。</p>		
評価	<p>津山市立教育・保育施設再構築計画において、公立幼稚園の7つの役割を意識した基本計画の作成、開園・閉園に向けての取組みを幼稚園現場の職員の力を合わせて実施する。</p> <p>通級指導教室と連携しながら、特別支援教育や幼児教育・乳幼児保育がつながり合って、保育現場の実践力を高める取組みを継続していく。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

幼児教育の質の向上		担当課	こども課
実施結果と成果	<p>津山市立鶴山幼稚園において、「人とつながりながら遊び始める幼児をめざして～心と体を動かして主体的に遊ぶことを通して～」を研究テーマに研究大会を実施し、保育参観後、公立・私立保育園（所）の保育士、公立・私立幼稚園・小学校の教諭の参加により、保育の振り返りをしながら、熱心に議論を重ねることができた。就学前教育・保育の現場で「津山市における就学前教育・保育カリキュラム」を活用して幼児理解に努め、幼児の発達段階を意識して指導計画を作成し、実践を行っている。</p> <p>幼稚園経営計画書・教育課程等を基に、園運営や教育活動を行い、年間3回の学校評価委員会の実施結果を保護者に公表したり、保護者のアンケートによる内部評価を保育に活かすことができている。</p> <p>また、小学校接続に向けた、就学前のアプローチカリキュラムについても、作成することができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>津山市立教育・保育施設再構築計画において、公立幼稚園の7つの役割を意識した基本計画の作成、開園・閉園に向けての取組みを幼稚園現場の職員の力を合わせて実施する。また、小規模園の課題に向けて、集団教育による幼児の育ちを促すため、合同保育の推進を行ったり、未就園児交流事業の充実を図ったりする。</p> <p>通級指導教室と連携しながら、特別支援教育や幼児教育・乳幼児保育がつながり合って、保育現場の実践力を高める取組みを継続していく。</p> <p>また、作成した就学前のアプローチカリキュラムを活用し、学校教育部署が作成する接続カリキュラムと連携を図っていく。</p>		
		自己評価	A

教育保育機関の連携		担当課	こども課
実施結果と成果	<p>津山市における就学前教育・保育カリキュラム委員会や各関係機関と連携して、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改定に伴い、平成30年度全面実施に向けて、関西大学教授 山縣文治氏を講師として招き、「就学前教育・保育に関わる指針・要領の改訂とこれからの教育・保育」をテーマに開催を行い、互いに改訂内容を学び合うことができた。</p> <p>また、保育園・認定こども園・幼稚園合同研修会では、松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科教授 山下文一氏を講師として招き、「質の高い教育・保育をめざして」をテーマに研修会を開催し、演習を行いながら今、幼児教育保育に求められるものを学び合うことができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>各園の取組みの実態や評価、園訪問等から課題を把握し、保育園（所、幼稚園、認定こども園）の合同研修会を実施し、実践力の向上を図る。</p>		
		自己評価	A

特別支援教育の充実		担当課	こども課
実施結果と成果	<p>特別支援教育を必要とする幼児の実態に応じた特別支援員を配置したり、津山市特別支援教育推進センター通級指導教室幼児部等と連携して、公立幼稚園・保育所・こども園の職員を対象に年4回「特別支援スキルUP研修会」を開催して、特別支援教育の専門性を高めることに努めた。また、「特別支援に関する研修会」を公立・私立保育園（所）・幼稚園・認定こども園の職員を対象に開催したところ、約60名が参加し、「発達障がいのある子どもの理解に向けて」をテーマに、川崎医療短期大学講師重松孝治氏の講演を聴き、適切な支援を行うために、特別支援教育に関する専門性の向上を図ることができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>保育現場において特別支援を必要とする乳幼児に対して、適切な支援を行うために、特別支援に関する専門性の向上を図ることやインクルーシブ教育の推進を行うことが課題である。</p> <p>また、通級指導教室幼児部において、嘱託職員を1名増員を行い、定住自立圏の取組みを新たに行うことで充実を図り、ニーズのある幼児への支援を行う。</p>		
		自己評価	A

環境の整備		担当課	こども課
実施結果と成果	<p>園児数の大幅な減少や施設の老朽化などの課題への対応を図り、望ましい集団教育の実施を目指すため、平成27年5月に策定した「津山市立教育・保育施設再構築計画」に基づき、津山地区（旧津山市内）において、公立幼稚園12園を閉園し、平成31年度開設に向けて東西エリアの場所を決定し2園の新設を進めている。</p>		
今後の課題と方向性	<p>公立幼稚園の役割を果たせる施設設備を検討し、教育保育のニーズに応じた幼稚園建設を進め、新園の設備の充実を図ると共に、なめらかに新園がスタートできるようにする。</p>		
		自己評価	A

認定こども園への移行促進		担当課	こども課
実施結果と成果	地域における教育・保育の実情やニーズに応じて柔軟に子どもを受け入れられ、認定こども園への移行がスムーズに図られるように制度の周知や支援を行っている。		
今後の課題と方向性	こども園で子どもの受け入れるができるように支援を行っていく。		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
幼稚園預かり保育事業	東・鶴山・加茂幼稚園で実施した。	5,965	こども課
特別支援対策事業	特別支援の必要な幼児のための、補助員を配置し、適切な保育体制を整えるとともに、津山市特別支援教育推進センター（通級指導教室幼児部）による支援の充実を図った。	5,259	こども課
幼児教育向上のための研修・研究事業	保育者の幼児教育・特別支援育の指導力の向上や保育園（所）・認定こども園・幼稚園・小学校の連携接続カリキュラムの取組等に向けて、計画的に研修・研究等を実施し、幼児教育の質の向上を図った。	331	こども課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組（事業名） 事業指標（内容）	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
公立幼稚園における学校評価 公立幼稚園において学校評価を実施	全園で完全実施	全園で完全実施	学校関係者評価委員による評価を実施 (100.0%)	達成	達成	園長がリーダーシップを発揮し、昨年の課題・反省をもとに、職員の資質向上と幼児教育の充実を図っていく。
教育・保育施設在園児数 教育・保育施設に在園する園児の数	4,026人	3,852人	3,920人	未達成	98.2	園児数が減少する中で、集団教育及び職員の質の向上の観点から適正規模の公立幼稚園と認定こども園で推進していく。
アプローチカリキュラムの作成・活用 保・幼・認定こども園・小連携のための接続期を意識したカリキュラムの作成		アプローチカリキュラムを作成	作成・各園（所）で活用 (100.0%実施)	未達成 接続カリキュラム作成 (50%)	未達成 接続カリキュラム作成 (50%)	就学前のアプローチカリキュラムを作成することができた。今後は、学校教育課と連携を取り合いながら接続カリキュラムを作成していく。

1 個の確立とつなぐ力を育む【学校教育】	自己評価	B
----------------------	------	---

(2) 義務教育の充実	自己評価	B
-------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 確かな学力の向上		担当課	学校教育課 教育総務課
施策の概要	<p>津山で育つ子どもたちに、基礎的な学力を確実に定着させ、活用力の向上を図るため、児童生徒が落ち着いて学習に取り組むことのできる学習環境を整えるよう努めた。</p> <p>教員の指導力向上を図り、わかる授業の実現に向けて、保幼小連携や小中連携による学習規律の定着に向けた取組を推進するとともに、外部講師を招聘する等、校内研究の活性に努めた。また、児童生徒の主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善やICT（情報通信技術）機器を効果的に活用した指導法の実践的研究に取り組んだ。</p> <p>家庭と連携して、家庭での生活習慣や学習習慣の改善を図り、家庭学習の充実に向けた取組を進めた。</p>		
評価	<p>「わかる授業・楽しい学校」を実現するために、「3つの提案6つの取組」に根ざした授業改善に取組み、児童生徒の基礎・基本の学力の定着と自ら学び考える力の育成を図った。教師の発問や板書・ノート指導、教室環境の整備、1時間の授業の組み立て、効果的な教材の使用等、様々な授業改善に加え、効果的な場面でのICT機器を積極的に利用するなど、わかる授業づくりに努めている。</p> <p>また、教師の指導力向上のため「津山市学力向上げんぼプロジェクト研究校」を指定し、外部講師を約30回招聘することで、校内研究の活性化に努めた。</p> <p>しかし、本市においては学力向上は大きな課題であり、わかる授業や多様な学習活動により全体を底上げするとともに、中間層を伸ばすための授業改善や補充学習の取組み方等の方策が必要である。</p>		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

学力の実態把握		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>国、県が実施する学力調査に加え、市独自の学力調査を実施し、それらの調査結果をもとに、小中学生の学力の定着状況を把握した。いずれの調査結果でも、本市の平均は県平均を下回る結果となったが、調査からは各学校が苦手としている部分が明らかになった。補充学習や家庭学習の充実や授業改善等の課題が明確となった。</p>		
今後の課題と方向性	<p>「学級集団の状態」は学習の定着度に大きな影響を与えるため、教師個々の思い込みが入りがちな観察法だけでなく、hyper-QUで得られる客観的な指標を用いて実態把握をすることは大変重要である。</p> <p>さらに、NRTとhyper-QUとのクロス集計を行うことで、子どもを理解し支援する際の「共通のものさし」として活用でき、より効果的な取組とでき、小学校高学年から中学校を見通した指導計画を立てるなど指導する際に効果的に活用していく。</p>		
		自己評価	B

わかる授業の推進		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>小学校に配置している授業改革推進チームを推進の柱としてわかる授業の推進をすすめた。アクティブラーニング等の研究校を指定し、外部講師の招聘や授業公開を通して授業改善を図った。</p> <p>また、児童生徒の学力の定着に向け、学習プリント作成ソフト（問題データベース）を授業や家庭学習等で積極的に活用した。特に中学校では、問題データベースを使ってTチャレプリントを作成し、全中学校で取りミニをすすめた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>授業改革推進チームを授業改善推進の柱として、学習規律と授業改善を市内で統一して行えるよう活動した。また、津山市地区協議会や学力向上担当者会を合同に設けるなどして「わかる授業」づくりの研修を行い、授業の導入や展開、教師の発問等の授業改善を進めた。</p> <p>次年度は、小学校チームだけではなく中学校チームも配置し、授業改善を一層推進する。</p> <p>学習プリント作成ソフト（問題データベース）のより効果的な活用を検討する。</p>		
		自己評価	B

学級編制の弾力化		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>小学校において、県費加配講師を効果的に配置し、学級編制の弾力化を行った。合わせて市費非常勤講師の配置により、少人数でのきめ細かな落ち着いた学習環境のもと指導の充実を図った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>小学校3・4年生は、県の基準により県非常勤講師の配置による35人以下学級編制が可能となるが、5・6年生では県費非常勤講師の配置ができない場合がある。個別の支援が必要な状況も増えており、学級の人数が36人を超える場合は学級が落ち着かなくなることが予想される。引き続き市費非常勤講師の配置による弾力的な少人数指導でのよりきめ細かな指導によって学力向上を目指す。</p>		
		自己評価	A

外国語教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>研究校を指定し、授業研究や小中で連携した指導の在り方についての研究を深め、指導力の向上を図ります。また、ALTを7名派遣し、小学校中学年からの系統的な指導の充実や児童生徒の国際理解の充実を図った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>平成30年度からは、小学校英語（外国語）に本格的に取組み、小学校3・4年生は年間35時間の外国語活動、小学校5・6年生は年70時間の英語を実施する。指導にあたっては、小学校英語専科教員による授業公開や実践事例の普及と小学校教員の指導力向上への研修会の実施する。</p>		
		自己評価	B

学校ICT環境の整備		担当課	学校教育課 教育総務課
実施結果と成果	平成29年度は小学校3校、中学校2校を研究指定し、指導用タブレット、デジタル教科書、壁掛け固定式プロジェクター等のICT機器を整備した。ICT機器を効果的に活用することで、視覚効果の高いわかる授業展開ができやすくなってきた。		
今後の課題と方向性	指導用タブレットやデジタル教科書等のICT機器を平成29年度のモデル校5校から平成30年度は中学校6校（全校整備）、小学校は20校整備するよう計画を前倒しすることとなっている。また、平成31年度は、残る小学校4校に整備し、児童にわかりやすい授業展開を行う。		
		自己評価	A

子どもと向き合う時間の確保		担当課	学校教育課
実施結果と成果	県が配置している業務アシスタントや校務支援員等を配置するとともに、校務支援ソフトを全校に導入し、ICT化による校務の効率化に向けた取組を推進した。業務アシスタント配置による教員の業務改善も進みつつある。		
今後の課題と方向性	業務の見直しや人員の配置を検討するとともに、校務支援ソフトの効果的な活用のための研修や情報提供を行う。市内の有効な具体的取組の共有を積極的に行い、子どもと向き合う時間の確保に努める。		
		自己評価	B

家庭学習の推進と生活リズムの定着		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>小・中学校とともに、家庭学習の手引きの配布を行った。さらに、チャレンジハッピーデーを年2回行い、家族と触れ合う時間を創り出すための啓発活動を進めた。</p> <p>市内の全ての学校において、家庭学習時間及びテレビ等の視聴時間の調査を行い実態把握を行った。その調査を基に、家庭学習の習慣化に向けた取組を進めた。</p> <p>さらに、「小中連携事業」の柱の一つとも関連させ、中学校ブロックでの家庭学習の習慣化の取組を進めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>小中学校とともに、家庭学習の手引きの配布を行うことで意識付けを行うことは大切である。さらに、「スマホの実態調査」からもわかるように、スマホの活用や使用時間からも課題があるように、チャレンジハッピーデーを年2回行い、家族と触れ合う時間を創り出すための啓発活動を進める必要がある。</p> <p>引き続き市内の全ての学校において、家庭学習時間及びテレビ等の視聴時間の調査を行い実態把握を行い、その調査を基に、家庭学習の習慣化に向けた取組を進める必要がある。</p> <p>今後は、「小中連携事業」とも関連させ、中学校ブロックでの家庭学習の習慣化の取組を進めたい。</p>		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
学力実態把握事業	市独自に学年を指定した標準テストを実施し、学力の定着状況の把握と授業改善等の取組の充実を図る。	1,700	学校教育課
わかる授業推進事業	問題データベース(小学校4教科、中学校5教科)を授業や補充学習、家庭学習等で活用し学力の定着を図る。	5,581	学校教育課
教師力向上対策事業	研究校を指定し、授業改善や校内研究の充実を図るとともに、その成果を全市に普及啓発し、教師の指導力向上を図る。	1,440	学校教育課
英語活動講師派遣事業	小中学校へのALT(外国語指導助手)の配置を拡充し、指導の充実及び児童生徒の国際理解の推進を図る。	33,496	学校教育課
学級編制の弾力化事業	小学校で市独自の35人以下学級編制学級や少人数指導を推進し、落ち着いた学習環境ときめ細かな指導の充実を図る。	14,279	学校教育課
ICT環境整備事業	学習環境整備として、市内5校に、指導用タブレット、デジタル教科書等を整備し、授業改善を推進する。 校務環境整備として、校務支援ソフトを全小中学校に導入し、セキュリティの向上と校務の効率化を図る(小中学校に整備したパソコンを高いセキュリティ環境で運用する教育ICT基盤整備事業を含む)。	23,853	学校教育課 教育総務課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
全国学力・学習状況調査 小6国語平均正答率【基礎】	70.2%	73.0%	岡山県平均値 を上回る 〔県平均〕 75.0%	58.3	97.3	引き続き、平均以上の力をつけることを目指す。
小6算数平均正答率【基礎】	74.4%	77.0%	〔県平均〕 79.0%	56.5	97.5	引き続き、平均以上の力をつけることを目指す。
小6国語平均正答率【活用】	61.1%	54.0%	〔県平均〕 58.0%	未達成	93.1	引き続き、平均以上の力をつけることを目指す。
小6算数平均正答率【活用】	40.7%	42.0%	〔県平均〕 46.0%	24.5	91.3	引き続き、平均以上の力をつけることを目指す。

全国学力・学習状況調査 中3国語平均正答率【基礎】	74.7%	71.0%	岡山県平均値 を上回る 〔県平均〕 77.1%	154.2	92.1	引き続き、平均以上の力をつける ことを目指す。
中3数学平均正答率【基礎】	60.4%	56.0%	〔県平均〕 64.0%	122.2	87.5	引き続き、平均以上の力をつける ことを目指す。
中3国語平均正答率【活用】	63.6%	63.0%	〔県平均〕 71.0%	150.0	88.7	引き続き、平均以上の力をつける ことを目指す。
中3数学平均正答率【活用】	35.8%	39.0%	〔県平均〕 47.0%	28.6	83.0	引き続き、平均以上の力をつける ことを目指す。
全国学力・学習状況調査 家で、自分で計画を立てて勉 強をする【小6】	26.0%	29.4%	岡山県平均値 を上回る 〔県平均〕 H29: 33.1%	47.9	88.8	PTAとも連携し、家庭学習が充実 できるような取組をする。
家で、自分で計画を立てて勉 強をする【中3】	21.4%	19.4%	〔県平均〕 H29: 19.2%	達成	101.0	PTAとも連携し、家庭学習が充実 できるような取組をする。
学校ICT環境整備事業 ICT機器による効果的な授業 の実施と学習環境の整備		5校で実施	小中学校35校 での効果的な 授業の実施	14.3	14.3	ICT機器について、当初計画を変 更し、平成30年度に26校導入し、 平成31年度中に残りの4校におい て授業を実施する。

## 【項目の総合評価】

イ 豊かな心の育成		担当課	学校教育課 教育総務課
施策の概要	<p>全国調査では、本市の小中学校のいじめや不登校・暴力行為等の問題行動については改善傾向にあります。これらの問題行動をさらに解消するため、関係機関との連携や専門家の支援等による組織的な指導体制の充実を図り、児童生徒の規範意識の向上や望ましい人間関係づくりを推進します。</p> <p>地域人材を活用した教育活動や地域の自然、歴史、文化などの学習を通して、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育み、ふるさとを理解し愛する人材の育成に努めます。</p> <p>また、道徳教育や情報モラル教育の充実を通して、児童生徒が人としてのあり方や生き方について学び、多様な価値観を認識しながら自ら考え、判断し、人生をより良く生きるための資質や能力の育成を図ります。</p> <p>そして、児童生徒の豊かな言語力と感性を育成するため、読書習慣の確立と読書に親しむ環境づくりに努めます。</p>		
評価	<p>不登校、いじめ、暴力行為等の生徒指導上の諸問題等の解決のため、関係機関や専門家と連携した対応ができるよう臨床心理士やSSWなどを学校に派遣し、児童生徒、保護者への支援を行った。また、学校警察連絡室等の関係機関と連携し規範意識向上の取り組みやhyper-QUによる学級集団の状態を把握し、落ち着いた学級にするための手立てを専門家から学ぶ研修を行った。さらに、いじめの問題やネット・スマホのトラブルへの対応力を児童生徒や自ら考え、交流する機会として津山市児童生徒交流会を実施した。小学校6年生児童は、バスを利用して洋学資料館や郷土博物館を訪れ、津山市の歴史や文化を学んだ。</p> <p>小学校では、H30年度から特別な教科道徳の学習が始まり、児童1人1人がより考える道徳の授業が求められる。引き続き、児童生徒が体験したり、交流したりしながら豊かな感性が養われるよう教育環境を整備する。</p>		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

生徒指導の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>「学校生活を送るためのアンケート」を活用した学級集団の見立てを行い、落ち着いた学級集団づくりを進めた。</p> <p>規範意識向上モデル校を指定して、学校警察連絡室等の関係機関と連携を図るとともに、中学校の生徒会活動とも連携して児童生徒の規範意識向上を図る取組を進めたり、防犯教室を実施したりした。</p> <p>学校の組織的な指導力の充実を図り、「津山市いじめ問題基本方針」にもとづき、いじめの積極的な認知と未然防止の取組を進めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>津山市の学校は概ね落ち着いてきているが、中学校の暴力行為には留意する必要がある。規範意識向上モデル校を指定し、学校警察室と連携し、規範意識の向上を図る取組を進める。児童生徒交流会でも規範意識向上を啓発する。「津山市いじめ問題基本方針」を改定し、各校に周知していじめの未然防止と適切な対応に努める。</p>		
		自己評価	A

不登校への対応と対策		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>長期欠席者や不登校傾向にある児童生徒に対して、学校に心理や福祉の専門家を教育支援アドバイザーとして派遣し、児童生徒、保護者への適切な指導、対応に向けてのケース会議、コンサルテーションを行った。</p> <p>不登校等の長期欠席の出現率の改善に向けて「不登校支援アセスメントシート」を活用し、実態把握に基づいた適切な支援の実施を進めた。課題のある小学校へ登校支援員を配置し、学校が組織的に対応して、新たな不登校を生まない取組を行った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>長期欠席者や不登校傾向にある生徒が中学校に多い。平成30年度は、心理や福祉の専門家を小中に全校配置し、児童生徒、保護者への教育支援をより細かく実施し、新たな不登校を生まない取組を進める。また、小学校においては、登校支援員を13校に配置し、小学校段階から長期欠席傾向に陥らないきめ細かい指導を行う。</p>		
		自己評価	B

道徳教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>特別な教科「道徳」の充実に向け、小学校1校を研究指定し授業公開を行う等、研究の充実を図りその成果を普及啓発する取組を進めた。また、津山市学校教育研究センターの道徳部会に岡山県に指導主事の派遣を依頼し、特別な教科「道徳」の評価についての研修を行うなど今後授業研究が推進されるよう教員の指導力の向上を図った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>平成30年度からは小学校、平成31年度からは中学校で特別な教科「道徳」の学習が始まり、新しい教科書の使用が始まる。そのため、市学校教育研究センターの道徳部会での研究や、各校に位置づけている道徳教育推進教師を中心に参加する県主催の道徳教育教科化対応研修等で研究を深め、各校で授業研究などで教員の指導力を高めていく。</p>		
		自己評価	B

ふるさと学習の推進		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>あいさつ運動や学校の教育活動への地域人材の活用を通して、地域の人とかかわる活動を推進した。</p> <p>地域人材の活用や津山洋学資料館や津山郷土博物館等の教育施設への訪問を通して郷土学習・自然体験等の充実を図り、ふるさとを愛する心を培った。</p> <p>ふるさと学習の充実に向け、指導資料等を活用した、ふるさと学習の推進を図った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>郷土を理解し郷土を愛する人を育成するためにも、地域、地元企業との連携をさらに促進し、連携した活動をより充実させる。</p> <p>授業においてふるさと学習資料を活用するとともに、津山洋学資料館等の教育施設等の訪問を続け、ふるさと津山を愛する心情をさらに高める。Webページ等で各校の取り組みについて紹介し、広めていく。</p>		
		自己評価	A

キャリア教育の推進		担当課	学校教育課
実施結果と成果	家庭・地域・企業と連携して、人とのかかわりや中学校2年生が実施している職場体験等を通して、児童生徒の社会的・職業的な自立に向けた取組を推進した。		
今後の課題と方向性	職場体験をただの体験に終わることなく職業・就業に対する意識の向上に努める。職業体験を通し、一般の方、異年齢の方とのふれあいを通じ社会性をはぐくむ。ふるさと津山を愛する人材の育成を図る。受け入れ企業を充実するため、新規企業の開拓に努める。		
		自己評価	B

情報モラル教育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	児童生徒や保護者に、携帯電話やスマートフォン、SNS（ソーシャルネットワークキングサービス）等の危険性と適切な使用（ルールづくり）について指導や啓発（ノーマディア週間の取り組み等）を行った。 インターネット上の人権侵害や健康障害等の防止に向けて、スマートフォン等の適切な利用に向けた児童会や生徒会の主体的な活動を推進し、児童生徒の情報モラルを育成するために、児童生徒交流会を開催した。		
今後の課題と方向性	本市の小中学生はスマホの所持率が高く、家庭での使用時間も長いという課題がある。そこで、家庭でのルール作りの啓発と共にチャレンジハッピーデー等ノーマディア週間の取り組みを行う。また、小学校段階からスマホについて考える必要があるため、児童会や生徒会でインターネットやSNSとのつきあい方や危険性を考える自主的な取り組みを推進していく。		
		自己評価	B

読書習慣の確立と読書環境の整備		担当課	学校教育課
実施結果と成果	朝読書や地域ボランティアによる読み聞かせ等を実施し、児童生徒の多様な読書活動を推進した。 司書教諭を中心に学校司書、図書整理員と連携し学校図書教育の充実を図った。学校図書館を活用した授業や調べ学習等の取組充実に取り組んだ。		
今後の課題と方向性	低年齢から読書に親しむ時間を増加させるため、学校支援ボランティアによる読み聞かせを推進し、各校において朝読書時間、読書週間や月間を設定し本に親しむ取組や学級文庫を設置するなど読書活動を推進する工夫を行う。また、図書室を利用した授業や調べ学習等の取組の充実を図る。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
教育支援アドバイザー派遣事業	心理福祉の専門家を学校に派遣し、児童生徒、保護者への適切な指導、対応に向けたケース会議やコンサルテーションを行います。	1,650	学校教育課

登校支援員配置事業	不登校・長期欠席児童生徒に対する小中学校の組織的対応力の向上を図るとともに、不登校傾向にある児童とその家庭への支援の充実を図るため、課題校に登校支援員を配置します。	11,139	学校教育課
落ち着いた学級づくり支援事業	小学校5年生と中学校1年生を対象にhyper-QU検査を実施し、学級の間人関係等を把握分析することで、学級崩壊や問題行動への早期介入と解消を図ります。	1,686	学校教育課
ふるさと学習推進事業	地域人材の活用や郷土教育施設への訪問、郷土学習の指導資料の作成を通して、ふるさと学習の充実を図ります。	3,381	学校教育課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
全国学力・学習状況調査 「学校の決まりを守る」児童生徒の割合【小6】	33.4%	39.7%	岡山県平均値を上回る 〔県平均〕 H29: 51.4%	35.0	77.2	学級指導や児童の自治活動を積極的に取組み、規範意識の向上を図る。
「学校の決まりを守る」児童生徒の割合【中3】	55.8%	55.2%	〔県平均〕 H29: 65.1%	6.5	84.8	生徒会活動などの自治的な活動を積極的に取組み、規範意識の向上を図る。
児童生徒の問題行動党生指導上の諸問題に関する調査 暴力行為の認知件数【1,000人当たりの発生件数：小学校】	0.8件	1.1件	岡山県平均値より改善する 〔県平均〕 3.7件	達成	達成	問題行動の低年齢化を意識し、早期対応に努める。
暴力行為の認知件数【1,000人当たりの発生件数：中学校】	15.1件	5件	〔県平均〕 9.8件	達成	達成	学校警察連絡室など関係機関と連携を強化し、生徒の規範意識向上をすすめる。
いじめの認知件数【1,000人当たりの発生件数：小学校】	4.4件	8.1件	〔県平均〕 12.2件	達成	達成	早期発見早期対応を徹底し、積極的に関わる。
いじめの認知件数【1,000人当たりの発生件数：中学校】	7.2件	9.1件	〔県平均〕 12.1件	達成	達成	早期発見早期対応を徹底し、積極的に関わる。
不登校出現率【100人当たりの発生件数：小学校】	0.2%	0.3%	〔県平均〕 0.51%	達成	達成	不登校解消のため組織対応を徹底し、積極的に関わる。
不登校出現率【100人当たりの発生件数：中学校】	1.8%	2.6%	〔県平均〕 2.47%	未達成	未達成	不登校解消のため組織対応を徹底し、積極的に関わる。

## 【項目の総合評価】

ウ 健やかな体の育成		担当課	学校教育課 保健給食課
施策の概要	<p>全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、本市の児童生徒の体力や運動能力は、多くの項目で全国平均を上回っている。さらなる向上を図るため、運動することの喜びや楽しさを味わうことのできる学校体育の充実に努めた。健康教育や食育の推進を通して、児童生徒の望ましい生活習慣の確立と心身の健康増進を図った。食生活においては、教育活動全体を通して、児童生徒が栄養バランスや食の安全性などについて正しく理解する力が身に付くよう食育を推進した。また、地場産物を活用し、食物を大切に生産者等への感謝の気持ちの醸成に努めるとともに、行事食や伝統食を通じて地域の文化に対する関心を高めた。</p>		
評価	<p>体を動かす楽しさが実感できるよう、リズムジャンプ運動の取組みも増加している。 朝食摂取率が小中学生とも昨年度を上回ったのは、食育推進の効果の表れである。学校給食への地場産物の使用割合は昨年度を下回ったが、天候不順による外部的要因である。</p>		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

学校体育の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>県教委が示す「みんなでチャレンジランキング」への参加校の増加や美作大学と連携したリズムジャンプの取組の拡充が進み、運動に親しむ環境づくりが進んでいる。 小学校5年生、中学校2年生を対象とした全国体力・運動能力、運動習慣等調査を実施し、状況把握し各校で課題を見つけ指導の改善を図った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>「みんなでチャレンジランキング」への参加とリズムジャンプの取組をさらに推進し、運動に親しむ環境づくりをさらに推進する。</p>		
		自己評価	A

基本的な生活習慣の改善		担当課	学校教育課 保健給食課
実施結果と成果	<p>子どもたちの生活がテレビやゲームなどに縛られず、家庭での有意義な時間を創り出す働きかけとしての「チャレンジ・ハッピーデー」の取組を推進した。 小学生（5年生）及び中学生（2年生）を対象に「食生活に関するアンケート」を実施した。朝食摂取率は、小中学生とも昨年度より増加した。 夏休み親子料理教室（22家族50名が参加）を開催し、地場産物を使用した料理に取り組み、合わせて郷土料理に関する講話を実施した。 また、夏休みレッツチャレンジクッキングでは、小中学生が野菜を使った料理のレシピを考案し、2,483名の応募があった。その他、PTA母親委員朝食づくり講座や給食試食会を通じて保護者の食に対する理解を深めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>引き続き、児童生徒の家庭での生活が充実するよう、家庭での生活を意識させる取組をすすめる。夏休み親子料理教室の開催や給食試食会などへの参加促進と、給食だより等を通して啓発を行い、家庭・学校とより一層の連携を図り、基本的な生活習慣・食習慣の改善に努める。</p>		
		自己評価	B

教育活動全体を通じた食育の推進		担当課	保健給食課
実施結果と成果	<p>「食育年間計画」に基づき、栄養教諭や食育担当教員を中心に食育の充実を図った。栄養教諭等は計画的に学校に出向き、給食時間等を中心に食の指導を行なった。</p> <p>学校に食育に関する情報提供を行うとともに、保護者に対して給食だよりの配付等の啓発活動を行なった。</p>		
今後の課題と方向性	<p>引き続き、食に関する指導や、給食だより等を通じて、学校、地域や関係機関と連携しながら、食育の重要性の指導に努める。</p>		
		自己評価	A

魅力ある献立づくりと食文化の継承		担当課	保健給食課
実施結果と成果	<p>学校給食に地場産物、旬の食材、行事食、伝統食等を取り入れて充実した献立作りを行ない、児童生徒の地域の文化に対する関心を高めた。旬の食材や地場産物の使用状況を、全家庭配付の献立表やホームページに掲載した。日本の食文化の理解につなげるため、行事食や伝統食について給食だより等で紹介した。</p> <p>また、生産者団体と関係機関との契約栽培品目の増加を計画実施した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>地場産物の活用の更なる促進を図るとともに、郷土料理、行事食等を積極的に導入していくことにより、学校給食の教育的効果を更に高めていく。</p>		
		自己評価	B

### 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
食育推進事業	学校・地域・家庭との連携を図りながら食教育の推進に努める。	186	保健給食課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
全国体力・運動能力、運動習慣等調査  体育の授業以外に、児童生徒が進んで体を動かしたり、外遊びを行ったりする場や機会を設定する学校の割合	77.0%	74.1%	100.0%	12.6	74.1	チャレンジランキングやリズムジャンプなど、体を動かすことを楽しむ取組を推進する。
基本的な生活習慣・食習慣の定着 朝食を毎日食べる子【児童】	82.0%	85.3%	93.0%	30.0	91.7	基準値よりは上昇したが、目標値には達成していないので、引き続き啓発していく。
朝食を毎日食べる子【生徒】	76.3%	78.8%	85.0%	28.7	92.7	基準値よりは上昇したが、目標値には達成していないので、引き続き啓発していく。
地場産物の活用 年間を通して学校給食に地場産物を使用する割合	36.4%	35.0%	40.0%	38.9	87.5	J A 及び関係部署と連携して使用作物の種類を増加を図ったり、関係部署との連携により津山産小麦を麺に使用するなどして、引き続き、上昇に向けた取組を行う。

## 【項目の総合評価】

工 特別支援教育の充実		担当課	学校教育課
施策の概要	<p>共生社会の形成に向け、障害の有無にかかわらず共に学ぶことができるよう配慮しながら、一人ひとりの教育的ニーズを踏まえた指導の充実と、関係機関と連携した教育を推進します。</p> <p>本市の特別支援教育の中核施設である「津山市特別支援教育推進センター」の機能を強化するとともに、早期からの教育相談や就学後の継続的な指導・支援体制の充実を図ります。</p>		
評価	<p>「津山市特別支援教育推進センター」の機能を強化するため通級サテライトの実施やネクストリーダー育成のための教職員研修を実施している。さらに、教育相談や就学後の継続的な指導・支援体制の充実のために市内小中学校に周知する。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

特別支援教育推進センターの機能の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>就学前からの教育相談や特別な教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図るとともに、通級指導教室、巡回相談や教職員研修、指導資料の提供等の取組を進めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>通級指導の充実を図るために市内小中学校に出向くサテライト指導の実施や教員の指導力向上を目指す教職員研修を実施するなど新たな取り組みも推進する。</p>		
		自己評価	A

個別の教育支援計画の策定と指導の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>特別支援コーディネーター研修を開催し、特別支援学級に在籍する児童生徒の状況や教育的ニーズを継続的に把握して、個別の教育支援計画の作成等に関する研修を実施し、各校への指導・支援につなげた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>平成30年度に新たに実施する特別支援教育に関わる継続研修により、校内支援体制を構築し指導の充実を図る。また、通常学級に在籍する教育上特別に支援を要する児童生徒の個別の支援計画の作成から活用につなげていくことで指導と支援を充実させる。</p>		
		自己評価	A

特別支援学級サポートの充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	多人数の特別支援学級に非常勤講師等を配置し、きめ細かな指導の充実を図ったことで落ち着いた学習環境を整えることができた。		
今後の課題と方向性	引き続き、きめ細かな指導の充実のため非常勤講師の配置を継続し、個に応じたきめ細かな指導を行っていく。		
		自己評価	B

関係機関との連携等による就学指導・支援体制の充実		担当課	学校教育課
実施結果と成果	津山市発達障害等支援関係者連絡協議会を計画的に開催し、関係機関と情報を共有し、指導の充実を図った。保幼小連携によるスムーズな就学が行われるように連携に努めた。		
今後の課題と方向性	保幼小中までの連携が進むように関係機関と情報を共有し、一貫した支援の充実を図る。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
特別支援教育推進事業	早期からの教育相談や通級指導の充実を図る。	3,299	学校教育課
特別支援学級サポート事業	他人数の特別支援学級に非常勤講師を配置し、落ち着いた学習環境を整えるとともに、きめ細かな教科指導の充実を図る。	14,951	学校教育課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
通常学級における特別な支援が必要な児童・生徒の教育支援計画の作成 個別の教育支援計画の作成率【小学校】	62.6%	100.0%	100.0%	100.0	100.0	対象となる児童が毎年度変化していくため、引き続き適切な支援が行えるよう取組を継続する。
個別の教育支援計画の作成率【中学校】	56.4%	100.0%	100.0%	100.0	100.0	対象となる生徒が毎年度変化していくため、引き続き適切な支援が行えるよう取組を継続する。

## 【項目の総合評価】

オ 開かれた学校づくり		担当課	学校教育課 生涯学習課
施策の概要	<p>学校支援地域本部の充実や適切な学校関係者評価を行い、地域の特色や実情を踏まえ地域と共にある学校づくりを推進する。</p> <p>さらに、保護者や地域住民などが、学校や地域で学習支援や環境整備、登下校時の見守りなど「学校支援ボランティア活動」を充実し、広く地域で子どもたちにかかわり支援する「地域学校協働活動」につなげる。</p>		
評価	<p>地域に開かれた学校運営、地域教育力を活用した教育活動など、地域に開かれた学校づくりを推進した。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

地域に開かれた学校運営		担当課	学校教育課
実施結果と成果	<p>各校で開催する学校評議委員会では保護者や地域住民等の支援を得つつ開かれた学校運営を進めた。</p> <p>学校評価の項目内容のうち、津山市の教育課題、重点取組等に係る項目について、全ての学校共通の評価項目として位置づけ、学校と保護者・地域がお互いに理解を深めるとともに、学校が説明責任を果たすため、学校評価の結果を公表した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>学校評議委員会を確実に実施し、さらに、保護者や地域住民等の支援による学校運営を目指す。学校評価の結果をホームページや学校だよりで公表する。</p>		
		自己評価	A

地域教育力を活用した教育活動と開かれた学校づくりの推進		担当課	学校教育課 生涯学習課
実施結果と成果	<p>小中学校の地域連携担当者を中心とし、教科指導や特別活動など多様な学習機会やふれあい活動などを通して、地域の教育力を活かした教育活動を進めた。</p> <p>さらに、学校支援地域本部事業を通して、地域コーディネーターが学校支援ボランティアなどの地域の人々を学校や公民館などに配置し、広く地域をあげて子どもたちを支援する体制づくりを進めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>学校支援地域本部で活躍する地域コーディネーターなど地域人材を教育活動にうまく取り入れ、子どもたちを支援する仕組みを充実させる人材の育成がさらに必要である。</p>		
		自己評価	A

学校支援ボランティア活動の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	地域の多くの人に学校支援ボランティアとして、子どもたちの学習支援や登下校時の見守り活動などに関わっていただくことができ、登録者数は3,000人になった。ボランティア活動は、全ての小中学校で行われ、また、土・日曜日、夏休み期間中などに公民館等を会場として広く行われた。		
今後の課題と方向性	学校と地域が一体となって子どもたちを支援するために、学校支援ボランティアの登録者数を増やしていく必要がある。また、学校支援ボランティアの配置や学校との連絡調整などの役割を担う地域コーディネーターの人材確保に努める。		
		自己評価	A

(3) 教育環境の充実	自己評価	A
-------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 安全・安心の学校づくり		担当課	学校施設課 保健給食課
施策の概要	<p>子どもたちが安全・安心な空間で学び生活することができるよう、老朽化した施設の大規模改修・空調施設整備工事を実施した。既存施設・設備の点検を行い、不具合箇所は速やかな改修を行うとともに、セキュリティ体制の強化を進め、よりよい教育環境の整備を図った。</p> <p>学校における衛生面での安全・安心を確保するため、国の学校環境衛生基準に基づき、計画的に衛生検査を実施した。</p>		
評価	<p>学校施設の大規模改修及びセキュリティ体制強化のための施設整備を計画的に実行できた。</p> <p>国の学校環境衛生基準に基づいた衛生検査が計画的に実施できた。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

小中学校施設整備事業		担当課	学校施設課
実施結果と成果	<p>学校施設の耐震補強は、平成26年度で建物の改修工事を完了し、小中学校の耐震化率は100%となった。</p> <p>津山市学校施設更新整備方針に基づく老朽化した施設の大規模改修（小中学校施設整備事業）は、本年度、佐良山小学校校舎、清泉小学校校舎、広野小学校校舎、喬松小学校校舎、中正小学校校舎、津山東中学校体育館、鶴山中学校武道場の大規模改修工事及び清泉小学校、広野小学校、広戸小学校、勝加茂小学校、鶴山中学校のプール改修工事が完了した。空調施設整備工事については、中学校が完成して使用を開始、小学校は継続中であり、新たに西小学校、南小学校、高倉小学校、成名小学校、秀実小学校の整備に着手した。また、平成30年度から着手する大崎小学校校舎、新野小学校校舎、勝加茂小学校校舎・体育館、誠道小学校校舎、一宮小学校体育館、高田小学校体育館、河辺小学校体育館、中道中学校体育館、久米中学校武道場の大規模改修工事の実施設計を行った。</p>		
今後の課題と方向性	津山市学校施設更新整備方針に基づき、計画的年次的な施設整備を行う。		
		自己評価	A

安全安心対策事業		担当課	学校施設課
実施結果と成果	<p>不審者の侵入防止対策として、広野小学校のフェンスの設置、河辺小学校へ防犯カメラを設置し、学校のセキュリティ体制を強化した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>困障や防犯カメラを未整備の小学校から順次計画的に整備し、学校のセキュリティ体制を強化していく。</p>		
		自己評価	A

学校の環境衛生対策		担当課	保健給食課
実施結果と成果	学校の飲料水やプール水の水質検査、保健室寝具のダニアレルゲン検査を小中学校で実施した。		
今後の課題と方向性	学校の環境衛生の向上を通じて、児童生徒の安全を確保するため、今後も検査を継続して実施する。		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
小中学校施設整備事業	大規模改修工事（新規4校） 喬松小学校（校舎） 中正小学校（校舎） 津山東中学校（屋内運動場） 鶴山中学校（武道場） 大規模改修工事（継続3校） 佐良山小学校（校舎） 清泉小学校（校舎） 広野小学校（校舎） 空調施設整備工事（新規） 小学校（5校） 空調施設整備工事（継続） 小学校（11校） プール改修（新規5校） 清泉小学校、広野小学校、広戸小学校、 勝加茂小学校、鶴山中学校 大規模改修実施設計（9校） 大崎小学校（校舎） 新野小学校（校舎） 勝加茂小学校（校舎、屋内運動場） 誠道小学校（校舎） 一宮小学校（屋内運動場） 高田小学校（屋内運動場） 河辺小学校（屋内運動場） 中道中学校（屋内運動場） 久米中学校（武道場）	2,447,617	学校施設課
安全安心対策事業	困障等設置 広野小学校 防犯カメラ設置 河辺小学校	3,680	学校施設課
学校の環境衛生事業	水質検査（飲料水年2回、プール水年1回） ダニアレルゲン検査年1回	1,009	保健給食課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
小中学校施設整備事業		27棟	51棟	52.9	52.9	津山市学校施設更新整備方針に基づき、計画的年次的な施設整備を行う。
安全安心対策事業 小中学校の防犯カメラの設置率	68.6%	88.6%	100.0%	63.7	88.6	困障や防犯カメラを未整備の小中学校から順次計画的に整備し、学校のセキュリティ体制を強化していく。

## 【項目の総合評価】

イ 安全・安心に配慮した学校給食の充実		担当課	保健給食課
施策の概要	平成26年8月に市内の全小中学校でセンター方式による学校給食を開始しており、今年度も安全安心な学校給食の提供に取り組んだ。 衛生面では、食中毒等の防止のため、国の「学校給食衛生管理基準」等に則った衛生管理の徹底を図った。 安全面では、食材の厳選、異物混入の防止、また、確実なアレルギー対応を行った。		
評価	衛生面、安全面とも国の定めた基準やガイドラインに基づいた対応が実施できている。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

衛生管理の徹底		担当課	保健給食課
実施結果と成果	食材の衛生検査を年1回行うなど、学校給食衛生管理基準に則して、学校給食の調理過程や配膳過程等における徹底した衛生管理を実施した。		
今後の課題と方向性	衛生管理の徹底と更なる向上に努める。		
		自己評価	A

安全性の確保		担当課	保健給食課
実施結果と成果	食品添加物の少ない食材や地場産品等、より安全性の高い食材の確保に努めた。 「異物混入対応マニュアル」を策定し、それに沿った異物混入の未然防止と発見時の適切な対応を行なった。 食物アレルギー対応は、国監修のガイドラインや国の指針に基づいて本市が作成した手引き等に基づき、適切にアレルギー対応を行なった。		
今後の課題と方向性	引き続き、安全性の向上を目指す。		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
安全・安心な給食提供事業	事故対応代替食「救給カレー」の配備	1,148	保健給食課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組（事業名） 事業指標（内容）	基準値 （計画策定時） a	現況値 （H29数値） b	目標値 （H33） c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率（%） (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率（%） (b/c)	課題・今後の方向性等
異物混入防止による安全安心な学校給食の提供 異物混入対応マニュアル（仮称）の策定及びそれに則った対応		100.0%実施	マニュアルの策定と対応（100.0%実施）	100.0	100.0	引き続き、マニュアルに則った異物混入防止と適切な事後対応を行っていく。

## 【項目の総合評価】

ウ 良好な教育環境の維持・向上		担当課	教育総務課
施策の概要	<p>小中学校の適正規模・適正配置について、「津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本計画」にもとづき検討を行っていくこととしており、将来推計の結果に基づき、部内で協議を行った。</p> <p>また、教育委員会の活動について、市ホームページや広報紙により市民への情報発信を行った。</p>		
評価	<p>小中学校の適正規模・適正配置について、将来推計の実施結果に基づき部会会議を実施した。</p> <p>また、教育委員会の活動等について、市ホームページや広報紙により市民への情報発信を行った。</p>		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

小中学校の適正規模・適正配置		担当課	教育総務課
実施結果と成果	<p>小中学校の適正規模・適正配置については、「津山市立学校の適正な規模や配置等に関する基本計画」にもとづき検討を行っていくこととしている。</p> <p>平成29年度は、本市の児童生徒数の将来推計を調査、確認した結果、この基本計画に定める望ましい範囲を超えなかったことから、対策の検討には至らなかった。</p>		
今後の課題と方向性	<p>引き続き、本市の児童生徒数の将来推計を慎重に調査、確認しながら、国県の動向等も注視しながら、必要に応じて審議会等の設置を検討していく。改善に向けた検討が必要となった場合には、児童生徒にとってより良い教育環境を第一に考え、保護者、学校、地域の理解と協力を得ながら検討を進めて行く。</p>		
		自己評価	B

教育委員会活動の活性化		担当課	教育総務課
実施結果と成果	<p>外部評価者を活用して前年度の教育の事務に関する点検を実施し、「平成28年度教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」の作成、公表を行った。</p> <p>また、教育委員会の活性化に向けて、「つやま市教委かわら版」の作成、「広報つやま」、ホームページを活用した教育委員会の施策や教育活動の周知に努め、広く市民に情報発信を行った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価報告書」を作成し、外部有識者による客観的な評価を受け、その結果を公表するとともに、評価結果の向上を目指す。また、教育委員会が実施する施策等について、ホームページや広報紙などによる積極的な情報発信を行い、より開かれた教育委員会を目指していく。</p>		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
文書等集配業務	連絡文書、広報紙、行政等からのお知らせなど、教育委員会と市内小中学校等とを結ぶ文書遞送便委託事業を実施した。	2,474	教育総務課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
教育に関する事務の管理及び 執行の状況の点検・評価 評価項目におけるA評価〔達成率95%以上〕の割合	73.0%	60.4%	80.0%	180.0	75.5	第2期計画の策定にあたり、項目の見直しを行ったため、基準値(昨年度)を下回ったが、今後、目標達成に向け、関係各課に働きかけを行う。



2 身近な人々のつなぐ力を育む【家庭・地域教育】	自己評価	A
--------------------------	------	---

(1) 青少年の健全育成の推進	自己評価	A
-----------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 青少年健全育成の総合的な推進		担当課	生涯学習課
施策の概要	心豊かにたくましく未来を拓いていく青少年を育成するため、学校、家庭、地域及び津山少年サポートセンター等との連携を図り、街頭指導を実施した。また、津山市子ども会連合会等の青少年健全育成団体への支援を通じて、子どもたちの自主性や創造性を育てる活動を進めた。		
評価	学校、家庭、地域及び青少年健全育成団体等との連携を強化して、健全育成活動を進めたことにより、青少年の健やかな成長が育まれた。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

健全育成のための連携強化		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	青少年育成センターによる声かけや見守り活動を年間450回以上実施したほか、学校や関係機関等と連携して情報交換会や合同街頭指導、サマーナイトパトロールを行った。また、津山っ子を守り育てる市民の会との協働により、「街づくり人づくりクリーン作戦アピール集会」や「津山っ子こころのふれあいトーク」などを実施した。さらに、小中学校を訪問し、あいさつ運動や校内巡回活動を実施することにより、健全育成を推進した。		
今後の課題と方向性	今後も、学校、関係機関等と連携した街頭指導や学校訪問活動などを通じて、青少年の健全育成に努める。		
		自己評価	A

青少年健全育成事業の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	津山市子ども会連合会や津山市少年少女発明クラブ等との連携により、野外活動や工作などの体験活動を推進し、子どもの自主性・創造性を培った。		
今後の課題と方向性	津山市子ども会連合会や津山市少年少女発明クラブ等との連携を進め、体験活動やさまざまな世代の人との交流を通じて、リーダー養成や人材育成に努める。		
		自己評価	A

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組（事業名） 事業指標（内容）	基準値 （計画策定時） a	現況値 （H29数値） b	目標値 （H33） c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率（%） (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率（%） (b/c)	課題・今後の方向性等
街頭指導活動の充実 青少年育成センターによる巡回指導の回数	457回	458回	480回	4.3	95.4	引き続き青少年の健全育成のため、巡回指導を行う。

## 【項目の総合評価】

イ 相談、支援体制の整備と社会参加の促進		担当課	生涯学習課
施策の概要	<p>多様化・深刻化する不登校やニート、ひきこもりなどの相談に対応するため、鶴山塾や青少年育成センターにおいて相談や助言、支援活動に取り組んだ。</p> <p>また、教育、医療、福祉などの関係機関と連携を進め、子どもたちが社会で自立して活躍できるよう、切れ目のない支援体制づくりや奨学金の貸し付けによる経済的支援を進めた。</p>		
評価	<p>鶴山塾では、充実した支援を行うため、学校や関係機関等と連携し、通塾支援のほか、家庭訪問による支援に取り組んだ。青少年育成センターにおいては、義務教育修了後の継続的支援のネットワーク体制づくりを関係機関と連携して進めた。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

相談・支援体制の整備と充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>複雑化し多様化する相談内容に対応するため、鶴山塾では、専門の相談員、臨床心理士を配置し、相談・通塾支援等を行ったことにより、通塾生の中には学校に復帰した者もいた。通塾生の中学校卒業時の進路支援も行い、進路を決めることができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>支援の手が届いていない子どもに対して、教育、医療、福祉などの関係機関と連携を進め、アウトリーチ型支援(訪問支援)を行うほか、義務教育修了後の進路支援を行う。</p>		
		自己評価	A

社会参加の促進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>不登校やニート・ひきこもり等の課題を抱えた青少年を継続的に支援するため、関係部署や関係機関等と連携を進め、切れ目のないネットワーク体制づくりを行った。</p>		
今後の課題と方向性	<p>青少年の社会的自立に向けて、関係機関とのネットワーク体制を構築し、関係部署・関係機関との情報交換や支援を進める。</p>		
		自己評価	B

啓発活動の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>子どもの心の悩みを知り、生きる力を育むため、市民や教育関係者を対象に講演会や研修会を開催した。また、青少年の健全育成に関する記事を、鶴山塾の発行する「教育相談だより」に掲載して小中学校・幼稚園等に配布したほか、広報紙、ホームページ等に掲載して啓発を進めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>鶴山塾や青少年育センターの事業内容を知っていただくため、広く啓発活動を行う。</p>		
		自己評価	A

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組（事業名） 事業指標（内容）	基準値 （計画策定時） a	現況値 （H29数値） b	目標値 （H33） c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率（%） (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率（%） (b/c)	課題・今後の方向性等
アウトリーチ型支援（訪問支援）の充実 支援の手が届いていない子どもや家庭への訪問支援件数	5ケース	6ケース	8ケース	33.3	75.0	引き続き関係機関と連携して訪問支援の充実を図る

(2)家庭・地域の教育力の向上	自己評価	A
-----------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 学校・家庭・地域が連携した教育の推進		担当課	生涯学習課 図書館
施策の概要	<p>(生涯学習課) 学校支援地域本部事業や放課後子どもプラン推進事業、つやまっ子読書プラン推進事業を充実させ、学校、家庭、地域の連携・協働を積極的に進めることにより、地域ぐるみで子どもたちを支援する取組を推進した。</p> <p>(図書館) 美作大学や津山高専、市内の6高校と相互協力協定締結10周年を記念した事業を行い、資料の相互利用や貸出、ビブリオバトル、講演会の開催など、これまでと同様に協働したほか、津山中央病院医療情報プラザとの業務提携により、来館が困難な入院患者に対して資料の貸出サービスや医療・健康等の情報を提供した。</p>		
評価	<p>(生涯学習課) 学校、家庭、地域が連携し、学校支援ボランティアの力を借りることで、子どもの居場所づくりや体験活動、学習支援活動、読み聞かせなどの読書活動を積極的に進めることができた。地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えることにより、持続可能な地域社会づくりにつなぐことができた。</p> <p>(図書館) 本貸出冊数：美作大学 380冊 329冊、津山高専501冊 419冊、高校748冊 689冊、津山中央病院744冊 1124冊 計 2,373冊 2561冊 教育機関への貸出冊数は減少したが、津山中央病院への貸出数は大幅に増え、合計冊数も増加した。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

地域の教育力の向上		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>学校支援ボランティアは、登録者が3,000人になり、登下校時の見守りや学習支援、本の読み聞かせなどで広く子どもたちの支援に関わっていただいた。</p> <p>さらに、放課後や週末などに地域の協力を得て行う「放課後子ども教室」や公民館講座などで、ボランティアの方々に幅広く体験活動やスポーツ・文化活動、学習活動などに関わっていただき、子どもたちに地域への愛着などを深めさせることができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>学校支援ボランティアの制度を活用して、地域全体で子どもを支える環境を整備することにより、地域の一体感を醸成する。</p>		
		自己評価	A

地域の協働による支援体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>地域住民、高校、大学、NPO法人などの協力を得て、学校支援地域本部事業を実施し、全ての小中学校で、学校内外の見守り活動や授業の補助支援を行い、公民館でも夏休みの学習支援を進めることができた。放課後子ども教室は20教室で、地域の子どもの居場所づくりや体験活動などを実施した。</p> <p>また、学校支援ボランティアの配置や学校との連絡調整の役割を担う地域コーディネーターの資質向上を目的として、交流会や研修会を開催した。</p> <p>平成29年度は、子どもを支援する事業の充実を図り、子どもたちと地域住民との交流を通じて世代間をつなぐ場を創出する役割を果たしているとして院庄公民館が、文部科学大臣から優良公民館表彰を受賞した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>公民館などを会場として子どもの学習支援などの場を広げることにより、地域をあげて子どもたちを支援する「地域学校協働活動」の体制づくりを進める。地域コーディネーターの新たな人材確保に努める。</p>		
		自己評価	A

市立図書館の機能充実		担当課	図書館
実施結果と成果	<p>図書館サポーター（ボランティア）制度創設をめざし、図書館ボランティアまつりを開催し、ボランティアの活動内容を紹介したほか、新たにボランティアの募集も行った。また、課題解決支援として、回想法キットの貸出や講演会を行い、多くの方が参加した。</p> <p>さらに、教育機関や医療機関との相互協力協定に基づいた連携を進め、平成29年度からアルネ津山に開講した「津山まちなかカレッジ」で就職支援やリカレント教育に関する連携を開始した。</p> <p>調べる学習コンクールは、応募件数は増加傾向であったが、目標としていた30件には届かなかった。</p>		
今後の課題と方向性	<p>サポーター（ボランティア）は、既存の事業や図書館の依頼に協力いただいているが、自主的に活動する状態になっていないことから、今後、各団体や個人との連携を密にし、自ら活動する環境を整えたい。</p> <p>また、課題解決支援や各種団体との連携は、今後も継続するほか、調べる学習コンクールについては、小中学校及び学校図書館と連携・協働することで、より多くの応募を目指す。</p>		
		自己評価	A

読書活動の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>「第3次津山市子ども読書活動推進計画（第3次つやまっ子読書プラン）」に基づいて、小学生を対象にした教科書音読発表会のほか、乳幼児期の子どもの保護者を対象にした読み聞かせキャラバンを6つの会場で実施し、読書習慣の定着を図った。読み聞かせキャラバンでは保健師に同行してもらい、子育て相談も同時に開催し、好評を得た。</p>		
今後の課題と方向性	<p>教科書音読発表会や読み聞かせキャラバンなどを、ボランティアや関係部署と連携・協働して開催し、読書習慣の定着を進める。また、平成30年度は「第3次津山市子ども読書活動推進計画（第3次つやまっ子読書プラン）」の現状や成果を踏まえて、平成31年度を初年度とする5カ年の「第4次津山市子ども読書活動推進計画（第4次つやまっ子読書プラン）」を策定する。</p>		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
学校支援地域本部事業	学校を核として、学校支援ボランティアの活用などをさらに進め、地域ぐるみで子どもを支援する「学校支援地域本部事業」の取組を広げる。	6,393	生涯学習課
放課後子どもプラン推進事業	放課後の子どもの安全で健やかな居場所作りのために、運営委員会の開催、「放課後子ども教室」の委託実施を行う。	5,058	生涯学習課
調べる学習コンクール事業	「見つけよう！津山の魅力」調べる学習コンクールを開催し、小中学生の「調べる力」「課題解決力」「郷土愛」の向上を目指す。	395	図書館
つやまっ子読書プラン推進事業	親子音読大会や教科書音読大会による啓発、全小学校を対象とした読書活動推進の取組等により、読書プランを推進する。	120	生涯学習課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
学校支援ボランティア活用事業 教育支援、環境整備、安全支援等の学校支援ボランティア登録者数	2,700人	3,000人	3,050人	85.7	98.4	引き続きボランティアの登録に努め、目標を達成する。
児童の読書習慣の定着の割合 授業以外で1日に30分以上読書をする児童〔小学校6年生〕の割合	40.4%	36.2%	44.0%	116.7	82.3	計画策定時よりも数値が減少し、小学生の読書離れが進んでいるため、より積極的な啓発活動が必要である。

## 【項目の総合評価】

イ 家庭教育への支援		担当課	生涯学習課
施策の概要	家庭内の生活習慣・学習習慣の確立や他人に対する思いやり、自制心などを子どもに身につけさせることの必要性を保護者に理解してもらうため、学びの機会を提供した。		
評価	保護者へ学習の機会を提供し、啓発を進めたことにより、家庭教育の重要性を認識してもらい、子育ての悩みや不安の解消につながることができた。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

情報の提供		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	子育てワークショップのファシリテーターや子育て支援センター職員とともに、新たに津山市家庭教育支援チームを結成し、協議を重ね、子育てに必要な情報を掲載した啓発資料「はびまる」を作成した。		
今後の課題と方向性	保健師等と連携して、多くの家庭に啓発資料「はびまる」を配布することで、子育て情報を届け、意識の啓発を図る。		
		自己評価	A

家庭教育力向上につながる学びの推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	幼稚園や小中学生等の保護者を対象に、家庭教育の重要性や子育ての悩みや不安の解消、親同士の間関係づくり等をテーマに子育てワークショップ研修や親学講座などを年間107回開催し、家庭教育力の向上に努めた。 また、子育てワークショップのファシリテーターの交流会を実施し、子育ての課題について認識を深めることができた。		
今後の課題と方向性	学校や関係部署との連携を図り、保護者の集まるあらゆる機会に親学講座や子育てワークショップ研修の開催を呼びかけ、学びの促進を図る。		
		自己評価	A

相談体制の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	教育相談センター鶴山塾では、家庭環境や子育ての悩みなどの複雑化する相談内容に対応するため、通常の面接相談や電話相談に加え、臨床心理士などの専門家による相談やアウトリーチ支援等を実施し、相談体制の充実を図った。		
今後の課題と方向性	相談内容が複雑化・多様化している中で、関係機関、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーなどと連携した更なる相談体制の充実が必要である。		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
家庭教育推進事業	小中学区ごとに親学講座を開催し、子どもの学力・体力の低下や生活習慣の乱れ、家庭・地域の教育力等の社会的課題に対して取組を進める。	1,080	生涯学習課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
家庭教育親学講座・家族ふれあい教室の開催 小中学校での親学講座・幼稚園での家族ふれあい教室の参加者数	5,713人	6,069人	6,500人	45.2	93.4	家庭教育の重要性から、引き続き保護者を対象に講座を開催し、目標値をめざす。

## 【項目の総合評価】

ウ 地域資源を活用した学習の推進		担当課	生涯学習課 文化課
施策の概要	<p>(生涯学習課) ふるさと津山の良さを再発見してもらうため、子どもから大人まで、さまざまな世代を対象に、歴史や文化、産業などをテーマにした学習の機会を提供した。</p> <p>(文化課) 生涯学習課との連携により、地域の歴史や文化財を市民の学習資源として提供した。また、講演会や、再現実験等を通じて郷土の歴史に触れる機会を設け、理解を深めた。</p>		
評価	<p>(生涯学習課) 郷土への関心や理解を深め、ふるさと津山に誇りと愛着心を抱くことのできる学習活動を推進した。</p> <p>(文化課) 関係各課の連携によって、より多くの市民に学習の機会を提供するとともに、講演会等の事業を通じ、様々な業績を再認識することができた。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

地域資源の活用と学習機会の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>地域資源を有効に活用し、企業訪問やものづくり体験などを通して、地域の魅力や良さを再発見する学習機会を提供した。</p> <p>公民館主催講座44講座、「大人のまなびい教室」4回、小学生の親子を対象とした「つやま子ども未来塾」30回開催。</p>		
今後の課題と方向性	<p>子どもから大人までが、郷土への誇りと愛着心を持つことで、地域づくりや将来の定住などにつながる学習機会を提供する。</p>		
		自己評価	A

関係機関との連携・協働		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>公民館や市立図書館、勝北陶芸の里工房、津山郷土博物館等の社会教育施設や、高等専門学校、地元企業等と連携・協働し、津山の歴史や文化、産業などについて学ぶ講座を開催した。</p> <p>また、津山市史研究に関連して、調査結果を情報提供する「美作学講座」を美作大学と連携して4回開催した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>郷土への関心や理解を深める講座の企画等を行うため、関係施設、関係機関等との連携をさらに進める。</p>		
		自己評価	A

子どもの居場所づくりや体験活動等の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	子ども向けの公民館主催講座や「つやま子ども未来塾」を開催し、物づくり体験や地域の食材を利用した調理実習、本の読み聞かせなど、親子で一緒に学習する機会を提供し、体験活動を推進した。		
今後の課題と方向性	親子で一緒に学ぶ機会を提供し、親子のふれあいや家族の絆などを深める取組を推進する。		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
つやま子ども未来塾	郷土愛や地域愛、親子愛、勤労観等の醸成を目的として、子ども向けに地域の歴史や文化、産業等をテーマにした学習機会や、親子で一緒に学ぶ学習機会を提供する。	500	生涯学習課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
公民館における地域学習の開催 公民館で開催する地域学習講座に参加した人数	1,361人	1,463人	1,500人	73.4	97.5	引き続き地域学習を積極的に進め、郷土への理解や関心、愛着などを高めます。
地域の資源を活かした学習講座の開催 地域の資源を活かした学習講座への親子などの参加者数	5,885人	6,589人	7,100人	57.9	92.8	引き続き地域の資源を活かした学習講座を開催し、親子などの参加を進めます。



3 過去から現在、未来へつなぐ力を育む 【生涯学習・スポーツ・文化】	自己評価	A
---------------------------------------	------	---

(1) 生涯学習環境の整備	自己評価	A
---------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
施策の概要	「第4次津山市生涯学習推進計画」の基本理念『「学ぶ・活かす・つなぐ・創る」～笑顔でつなぐ ひとづくり まちづくり～』に基づき、市民一人ひとりが主体的に学び続けることのできる生涯学習事業を推進した。		
評価	学びを通じて、人と人、人と地域、世代と世代間の連帯感や絆を深めることができた。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

生涯学習の推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	「第4次津山市生涯学習推進計画」を積極的に推進するため、市の全庁的な組織である生涯学習推進本部が中心となって、各部署の生涯学習関連事業(149事業)を実施した。また、公民館や市立図書館などの社会教育施設に加え、高等専門学校や大学などとの連携・協働を進め、事業を実施した。		
今後の課題と方向性	関係部署、関係機関等との連携・協働を進め、講座や行事の日程等を調整して、誰もが参加のしやすい生涯学習の機会を提供する。		
		自己評価	B

協働による生涯学習推進体制の確立		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	市民の有識者で構成された生涯学習推進懇談会の意見を聴き、また、ボランティアグループやNPO法人等との連携・協働を通じて、生涯学習や青少年の健全育成を進めた。		
今後の課題と方向性	生涯学習推進懇談会や各種の関係審議会の意見を踏まえて、生涯学習及び青少年健全育成の推進体制づくりを進める。		
		自己評価	A

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
生涯学習関連事業 市の各部署が実施した生涯学習関連事業のA評価〔達成率95.0%以上〕の割合	88.4%	77.6%	95.0%	163.6	81.7	第2期計画の策定にあたり、項目の見直しを行ったため、基準値(昨年度)を下回ったが、今後、目標達成に向け、関係各課に働きかけを行う。
生涯学習をしたことがある市民の割合	74.2%		77.1%			平成33年度にアンケート調査を行い、達成率を把握することとしている。

## 【項目の総合評価】

イ 学習情報・機会の提供		担当課	生涯学習課
施策の概要	市民が気軽に生涯学習に取り組めるように、メディアなどの媒体を通じて生涯学習情報を積極的に発信するとともに、学習の機会を提供した。また、講師や社会教育団体等の情報を、学びたい個人やグループ等に広く提供する体制づくりを進めた。		
評価	公民館や市立図書館、津山郷土博物館などを会場として、ライフステージに応じた、さまざまな世代の人に参加のしやすいテーマを取り上げて生涯学習の機会を提供したことにより、人づくりや地域づくりを進めることができた。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

生涯学習情報の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	広報紙やチラシ、インターネットなどを通じて、生涯学習情報を発信し、市民の生涯学習を進める体制や環境づくりに努めた。また、生涯学習通信「まなびい」について、見てわかりやすい内容とするよう見直しを行い、広報紙を通じて全戸に配布した。		
今後の課題と方向性	多様な生涯学習が進められるよう、関係部署や教育研究機関の生涯学習関連情報を広く「まなびい」に掲載し、積極的に発信する。		
		自己評価	A

ライフステージなどに応じた学習機会の提供		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	現代的な課題である、家庭教育や子どもの居場所づくり、青少年の健全育成、防災、防犯、環境、スポーツ、文化、健康づくりなどをテーマにして、学習機会を提供した。 また、学びの成果を発表し、市民同士の交流を進めるため、公民館などの生涯学習施設で市民との協働による文化祭を開催した。		
今後の課題と方向性	ライフステージや現代的課題に対応した学習機会を提供し、学びの楽しさや心の豊かさにつながる生涯学習事業を実施する。		
		自己評価	A

生涯学習推進につながる支援の充実		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	市民のさまざまな学習活動のニーズに対応するため、講師や社会教育団体等の情報を生涯学習人材バンクに登録し、情報発信した。また、市民の希望に応じて、市の業務について出前講座（生涯学習リクエスト大学）を実施した。		
今後の課題と方向性	生涯学習人材バンクや生涯学習リクエスト大学の充実を図り、市民が自主的に多様な学びを進めることができるよう支援を行う。		
		自己評価	B

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
生涯学習リクエスト大学 市の業務の中で市民が聞きたいこと、知りたいことを、市職員が講師となり講座を開催	利用件数 207件 参加者数 15,255人 講座数 45講座	参加者数 14,657人 講座数 46講座	生涯学習リクエスト大学の 利用者数 16,000人	80.3	91.6	平成28年度にクリーンセンターが完成し、ゴミの分別方法等の周知が行き届いたことから、ゴミに関する出前講座の依頼が減少した。

## 【項目の総合評価】

ウ 拠点施設の整備		担当課	生涯学習課 図書館
施策の概要	<p>(生涯学習課) 津山市公共施設再編基本計画との整合性を図りながら、津山市公民館整備方針に沿い、老朽化した公民館の計画的な整備・改修を進めた。 また、利用者や地域住民のアンケート結果等の意見を踏まえ、新しい地域課題に対応した講座の開設を行った。</p> <p>(図書館) 本館・地区館ともに老朽化が著しく、空調や照明器具など計画的修繕が必要な状況である。しかし、いずれの施設も津山市公共施設マネジメント基本方針に採択されていないことから、今後、全体の改修計画を作成し関係機関との調整が必要である。 さらに、図書館運営については、関係機関と連携した各種講演会や館内に設置された放送大学津山教室での教材視聴などにより、地域の情報拠点・学習拠点として市民に役立つ図書館サービス向上に努めた。</p>		
評価	<p>(生涯学習課) 公民館の整備・改修を進めるため、公民館施設整備事業を実施し、地域の拠点施設である公民館の安全性や利便性の向上に取り組んだ。地域住民のニーズを取り込んだ生涯学習の講座を企画・実施したことで、講座参加者が増え、住民同士の交流が進んだ。</p> <p>(図書館) 図書館の運営については、講演会やボランティアとの協働について予定通り実施でき、事後アンケートでも良好な意見が大半だった。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

社会教育施設の整備		担当課	生涯学習課 図書館
実施結果と成果	<p>(生涯学習課)津山市公民館整備方針に基づいて、広野公民館の建替を完了し、田邑公民館の屋根改修と多目的アリーナの増築を完了した。つやま西幼稚園との複合施設となる二宮公民館の整備については、実施設計を完了し、平成30年度にかけて造成工事を進めている。また、高野公民館の駐車場が手狭であることから、駐車場用地を取得した。</p> <p>(図書館)事業を通じた地域課題の解決支援をめざし、ビジネス支援講演会(3回)や健康セミナー、回想法講演会等を関係団体との協働で開催し、多くの方の参加を得たほか、事後アンケートでも好評を得た。 さらに、放送大学では、通常の教室利用者(実利用者:11人 資料利用:49回)に加え、放送大学岡山学習センターとの共催で公開講座を年2回行い、放送大学の学生に加え、一般の方の参加も得た。</p>		
今後の課題と方向性	<p>(生涯学習課)二宮公民館については、地元との調整を行いながら引き続き整備を進める。高野公民館は駐車場の造成工事を行う。他の社会教育施設も安全性確保の観点から、必要な修繕を行う。</p> <p>(図書館)事業への参加者から次回も参加したいとのアンケート結果をいただいているが、図書館が様々な事業を行っていることを知らない人も多いため、事業開催についての周知が課題である。</p>		
		自己評価	A

施設運営への市民参画		担当課	生涯学習課・図書館 文化課・スポーツ課
実施結果と成果	<p>(生涯学習課) 公民館運営審議会において公民館運営方針を審議し、各公民館に設置している公民館活動推進協議会の協議を経て、特色ある公民館活動を推進した。他の生涯学習施設でも、市民やボランティア団体などとの連携・協働による施設運営に努めた。</p> <p>(図書館) 子育て支援の拠点となるよう約100人の図書館ボランティアの協力を得て、各館での読み聞かせやおはなし会、民話の語りを聞く会など、親子でのふれあいなどを通じて本に親しみ、読書の楽しさを知るきっかけづくりを進めた。</p> <p>さらに、3月には図書館ボランティアまつりを開催し、ボランティアの活動内容を多くの方に知っていただくとともに、新たなボランティアの募集に努めた。</p> <p>(スポーツ課) 体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツ振興財団などの関係団体や地域との連携強化を行った。また、市民や競技者にスポーツの機会を提供し、多くの市民が参加することができた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>(生涯学習課・図書館) 公民館運営審議会や公民館活動推進協議会、図書館協議会等、市民参画を積極的に進め、より利用しやすく、また魅力的な施設となるよう協議を進める。</p> <p>(スポーツ課) 関係機関・団体とさらなる連携強化を図り、市民ニーズを的確に把握し、時代に即応したスポーツメニューの提供を図る。</p>		
		自己評価	A

職員の資質向上		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>公民館長会で、館長同士の定期的な情報交換を行うとともに、津山ガスへの企業訪問を行い、また、司法書士の相続に関する研修会や岡山市など13の市町で構成されている岡山中枢連携都市圏協定に基づくESD研修会に参加し、資質向上に努めた。</p> <p>また、岡山県が実施する社会教育関係者を対象にした人づくり・まちづくり研修会などへも参加した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>現代的な課題に対応し、資質向上につながる研修会を工夫して開催する。</p>		
		自己評価	A

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
公民館整備事業	<p>津山市公民館整備方針に基づき、老朽化している公民館の建替え・改修等の整備を計画的に推進した。</p> <p>(建替) 広野公民館、二宮公民館 (増築) 田邑公民館多目的ホール</p>	312,333	生涯学習課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
生涯学習施設での魅力的な企画づくり 公民館・市立図書館・スポーツ・文化施設等の利用者数	1,638,245人	1,594,756人	1,550,000人	達成	102.9	策定時から現況値までの数字が目標値を大きく超えているが、この理由として小中学校の校舎耐震化工事・大規模改修工事が進行していることに伴い、学校施設利用者が津山総合体育館や津山陸上競技場など生涯学習施設を利用しているためである。

## 【項目の総合評価】

エ 生涯学習成果の活用		担当課	生涯学習課
施策の概要	<p>学びの成果が世代を超えて循環し、支え合う仲間づくりや持続可能な地域づくりにつながる生涯学習事業に取り組んだ。</p> <p>特に、公民館や市立図書館、学校等の地域の拠点施設において、ボランティアを活用し、学びの成果を活かす事業を実施した。</p> <p>さらに、コーディネーター役となる人材を積極的に育成するため、ボランティアの交流会・研修会を実施した。</p>		
評価	<p>市民や社会教育団体、企業などと積極的に連携・協働し、地域課題の解決や子育て支援などの事業に取り組んだことにより、人の交流が進み、地域づくりや人づくりの意識が育まれた。</p> <p>また、生涯学習活動を推進・支援するボランティアなどの人材活用を進めたことで、生涯学習人材バンクの登録者数が少しずつ増加した。</p>		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

学習成果を活かす意識啓発		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>公民館文化祭や津山市子どもまつりなどの場において、人材養成につながる取組を進めた。</p> <p>また、学校支援ボランティアや読み聞かせボランティア等を対象とした交流会・研修会において、学習成果を活かすワークショップを開催した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>ボランティア等の交流会・研修会を開催することで、学習成果を活かす意識啓発を進める。</p>		
		自己評価	B

持続可能な地域づくりのための生涯学習推進		担当課	生涯学習課
実施結果と成果	<p>持続可能な地域づくりに向け、市の関係部署で生涯学習関連事業を実施した。</p> <p>また、地域の中学生と大人などが語り合う特別交流事業（中学生だっぴ）を開催し、地域への愛着と関心を育て、地域を創っていくことのできる人材育成事業を加茂中学校で実施した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>市民や社会教育団体、企業などの積極的な連携・協働を通じて、持続可能なまちづくりにつながる生涯学習活動に取り組む。特別交流事業（中学生だっぴ）を全ての中学校で継続して実施し、人材育成に努める。</p>		
		自己評価	B

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組（事業名） 事業指標（内容）	基準値 （計画策定時） a	現況値 （H29数値） b	目標値 （H33） c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
生涯学習活動を推進・支援する人材を発掘、育成、活用するための仕組みの構築 津山市生涯学習人材バンクの登録者数	登録者数 106人・団体	登録者数 119人・団体	登録者数 150人・団体	29.5	79.3	生涯学習活動を推進・支援する人材を発掘・育成・活用するため、引き続き津山市生涯学習人材バンクの登録者数を増やす。

(2)スポーツ活動の充実	自己評価	B
--------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 生涯スポーツの振興		担当課	スポーツ課
施策の概要	津山市第5次総合計画及び津山市スポーツ振興基本計画にもとづき、市民の健康づくりや体力づくりを推進し、市民一人ひとりが気軽にスポーツに親しめる機会の提供と、新しいスポーツメニューの提供を行った。 また、スポーツ指導者の資質向上や育成などの諸課題を関係団体と共有し、連携を強化することで、「参加するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」を総合的に推進するとともに、本市のスポーツ活動活性化のためにスポーツによる交流人口の増加に取り組んだ。		
評価	関係機関・団体と連携強化を図り、スポーツメニューの提供を行ったことによりスポーツ教室や大会への参加者数は増加しているが、それぞれの指導者数については減少傾向にある。		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

関係団体との連携		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団、スポーツ振興財団などのスポーツ関係団体と連携、協働し、つやま市民スポーツ祭や各種スポーツ教室などを実施し、多くの参加者を得た。		
今後の課題と方向性	スポーツ関係機関・団体と連携強化を図り、市民ニーズを的確に把握し、時代に即応したスポーツメニューの提供を図っていく必要がある。		
		自己評価	A

指導者の育成と確保		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	スポーツ推進委員については、岡山県や中国地区、全国レベルの研修会に参加した。また、スポーツ少年団は、母集団研修会や指導者研修会に参加、体育協会においては、育成指導委員会を中心にスポーツ指導者研修会を開催し、知識の向上とレベルアップを図った。		
今後の課題と方向性	人材の確保と個々のスポーツ技術や資格取得のための支援が必要である。		
		自己評価	B

「参加するスポーツ」の提供		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	つやま市民スポーツ祭、ウォークラリー、オリエンテーリングなどのスポーツ行事や各種スポーツ教室（グラウンドゴルフ教室、ニュースポーツ教室、親子チャレンジ教室）など各種スポーツ教室を企画・実施し、多くの参加者を得た。		
今後の課題と方向性	市民のニーズを的確に把握し、時代に即応したスポーツメニューの提供を図っていく必要がある。		
		自己評価	A

「見るスポーツ」「ささえるスポーツ」の提供		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	加茂郷フルマラソン全国大会の実施やそれに伴うボランティア参加、ファジアーノ岡山、湯郷ベルなどのプロスポーツチームのゲーム観戦を提供し、多くの参加を得た。		
今後の課題と方向性	スポーツ大会やイベント等の情報発信や普及啓発を推進し、スポーツを親しむ機会の充実を図っていく必要がある。		
		自己評価	A

合宿等誘致宿泊費助成金とスポーツ大会開催運営費補助金の活用		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	合宿等誘致宿泊費助成金 52件 1,413,000円 ○スポーツ大会開催運営費補助金 10件 1,100,000円 合計 63件 2,513,000円		
今後の課題と方向性	今後は「スポーツ大会・合宿誘致事業補助金」として、対象施設を津山市所管の全スポーツ施設とし、制度を活用することにより、競技力向上と交流人口の増を図る。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
関係団体の活性化支援事業	体育協会、スポーツ推進委員、スポーツ少年団などの関係団体の体制強化と活性化を支援します。	12,641	スポーツ課
スポーツ教室、行事等開催事業	幅広い年代で気軽に参加できる「各種スポーツ教室」や「つやま市民スポーツ祭」、全国から参加する「津山加茂郷フルマラソン全国大会」を開催します。	6,615	スポーツ課
次期スポーツ振興基本計画策定事業	今後10年間（H30～39）のスポーツ振興指針とします。	154	スポーツ課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
スポーツ指導者数とスポーツ教室や大会参加者数 社会体育における指導者数 【スポーツ推進員】	63人	61人	67人	50.0	91.0	毎年、減少する傾向にあるので、増加に転じるよう検討したい。
社会体育における指導者数 【スポーツ少年団指導員】	696人	600人	750人	177.8	80.0	毎年、減少する傾向にあるので、増加に転じるよう検討したい。
社会体育における指導者数 【スポーツ少年団指導員 (うち認定指導員)】	373人	365人	400人	29.6	91.3	毎年、減少する傾向にあるので、増加に転じるよう検討したい。
スポーツ教室や大会への参加者数	11,773人	15,482人	12,000人	1,633.9	132.0	スポーツ教室等への参加が増えているので、今後も継続していく。

## 【項目の総合評価】

イ スポーツ環境の整備		担当課	スポーツ課
施策の概要	市民のだれもが生涯にわたり、スポーツ活動に取り組むことのできる環境を整備していくことが大切である。 施設整備については、施設の老朽化へ対応するために安全性と緊急性を考慮しながら、優先順位を定めて改修・修繕を実施した。 また、施設利用者の目的とニーズに応じた情報サービスの提供と、利便性の向上による施設の利用拡大に取り組んだ。		
評価	施設整備については、関係団体の意見と市民ニーズを勘案した全体計画を作成したうえで、市の公共施設長寿命化等推進基金対象事業(FM)にエントリーし、安全性と緊急性を考慮しながら、優先順位を定めて改修・修繕を実施している。 FM(ファシリティマネジメント):企業・団体等が保有又は使用する全施設資産及びそれらの利用環境を経営戦略的視点から総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動のこと。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

スポーツ施設等整備事業		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	津山スポーツセンター照明設備修繕(テニスコート、サッカー・ラグビー場)については、平成29年7月に完了した。 勝北総合スポーツ公園プール修繕については、平成29年6月に完了した。 勝北総合スポーツ公園野球場改修については、平成30年3月に完了した。		
今後の課題と方向性	引き続き緊急性と安全性による優先順位を定めて、計画的な施設・設備の整備と、安心安全な施設サービスの提供に努めていく。		
		自己評価	A

利便性向上		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	ホームページ等による情報発信は、随時実施した。 ネットで申込ができる施設予約システムについては、障害が発生しないように安定した運用に努めた。		
今後の課題と方向性	ホームページ等による情報発信は、引き続き実施する。 現行の施設予約システムが平成30年度末で終了するため、次期システム更新に向けて共同利用を行っている岡山県の協議会で検討を進める。		
		自己評価	A

指定管理の導入によるサービス向上		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	久米市民プールレインボー・グラスハウスについて、指定管理者とスポーツ課との日常的な情報交換や定期的な協議会の開催などにより管理運営についての検証を行うとともに、サービスの向上と魅力あるプログラムやイベントの実施による利用者の増加を図り、安定した管理運営を継続できた。		
今後の課題と方向性	久米市民プールについては、平成30年度の今期指定管理終了後は3年間の指定管理期間とし、次期期間終了までにその後の方針を定める。 グラスハウスについては、今期の指定管理が終了する平成32年度までは現行の指定管理委託を行う。		
		自己評価	B

合宿等誘致宿泊費助成金		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	合宿等誘致宿泊費助成金 52件 1,413,000円 津山スポーツセンターサッカー・ラグビー場の平成29年度の利用者数 48,448人 改修前の平成25年度の利用者数は40,929人であり、助成金制度創設当初の目的の1つであるサッカー・ラグビー場の利用促進は達成できていると考える。		
今後の課題と方向性	今後は「スポーツ大会・合宿誘致事業補助金」として、対象施設を津山市所管の全スポーツ施設とし、制度を活用することにより、競技力向上と交流人口の増加を図る。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
スポーツ施設整備事業	津山スポーツセンター照明設備修繕	4,856	スポーツ課
	勝北総合スポーツ公園プール修繕	4,995	
	勝北総合スポーツ公園野球場改修	17,216	
指定管理施設の利用促進事業	久米市民プール、グラスハウスの利用促進とサービス向上に取り組んだ。	146,487	スポーツ課
合宿誘致宿泊費助成金	人工芝生化したサッカー・ラグビー場を利用した合宿を誘致することで、施設の利用促進と交流人口の増加を図った。	1,413	スポーツ課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
スポーツ・運動活動の拡大 社会体育施設の年間利用者数	861,681人	833,132人	800,000人	達成	104.1	スポーツ推進基本計画に基づき、スポーツ環境の整備を進める。

## 【項目の総合評価】

ウ 競技力の向上		担当課	スポーツ課
施策の概要	関係機関・団体が実施する専門性の高い指導者研修会などへの参加を促進し、指導者の育成に取り組んだ。また、優秀選手を育成するために、全国大会などに出場する選手への激励会の開催や激励金の交付、表彰による顕彰を行い、マスコミ等を通じて情報発信を行った。		
評価	指導者に対し積極的な研修会等への受講促進を実施しているが、参加者が伸び悩んでいる現状である。しかしながら全国大会出場者が増加しており成果を評価できる。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

研修会の開催		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	スポーツ推進委員、スポーツ少年団や体育協会への支援を通じて指導者の育成を図りながら、特に専門性を高めるための指導者研修会等への参加を促進したが、参加数が伸び悩んでいるのが現状である。		
今後の課題と方向性	スポーツ少年団の認定指導員の資格取得に向けて受講を促すとともに、専門性の高い指導者を育成するための支援策を構築していく必要がある。		
		自己評価	B

優秀選手の激励と顕彰		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	優秀選手の顕彰を行うため、平成29年度においては、全国大会等に出場する選手の激励壮行会の開催と、279人、10団体に対して、239万5千円の激励金を交付した。対象競技については、陸上競技、サッカー、水泳、柔道、空手、ソフトボール、など多項目(32種目)にわたっている。		
今後の課題と方向性	全国大会等に出場する選手に対しての激励壮行会の開催や激励金交付については現状を維持し、優秀選手の顕彰も含めて、マスコミ等への情報発信手段を活用し、市内外に周知していく。		
		自己評価	A

夢アスリート事業		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	5団体(津山剣道連盟 津山市陸上競技協会 津山市弓道連盟 津山市ハンドボール協会 津山市バドミントン協会)において実施した。全国大会出場(剣道 弓道 陸上競技) JOC指定育成選手(ハンドボール)などの成果があった。		
今後の課題と方向性	事業実施団体における指導者の確保と選手選定方法の統一を行い、継続して事業を実施する。		
		自己評価	A

スポーツ大会開催運営費補助金		担当課	スポーツ課
実施結果と成果	市内のスポーツ施設を主会場とした大規模なスポーツ大会を誘致することで、豊かな競技経験や知識を有する選手を育成した。 ○スポーツ大会開催運営費補助金 10件 1,100,000円		
今後の課題と方向性	今後は「スポーツ大会・合宿誘致事業補助金」として、対象施設を津山市所管の全スポーツ施設とし、制度を活用することにより、競技力向上と交流人口の増加を図る。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
優秀選手等激励・顕彰事業	全国大会等に出場する選手の壮行会を開催し、激励金を交付するとともに、表彰を通じて優秀選手、指導者等の顕彰を行います。	2,395	スポーツ課
スポーツ大会開催運営費補助金	市内のスポーツ施設を主会場とする大会を誘致することで、競技力の向上と交流人口の増加を図ります。	1,100	スポーツ課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
競技力の向上 全国大会等への出場者数 【個人】	272件	279件	300件	25.0	93.0	スポーツ推進基本計画に基づき、競技力の向上を目指す。
全国大会等への出場者数 【団体】	6件	10件	7件	400.0	142.9	スポーツ推進基本計画に基づき、競技力の向上を目指す。

(3) 芸術・文化活動の充実	自己評価	B
----------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 市民文化の創造と継承		担当課	文化課
施策の概要	津山市では市民や市民団体による自主的で多彩な文化活動が活発であり、その文化活動支援事業や発表・鑑賞機会の提供を実施し、多くの市民の参加や交流が促進された。 文化活動の活性化を図り、文化活動を担う人材や文化団体の育成・支援を行ない、個人・民間団体・県などと連携・協働して、多くの市民が優れた芸術文化と歴史遺産に触れ、鑑賞する機会の創出を図った。		
評価	総合的・効果的な文化施策の推進を図るため、これまでの芸術文化活動の成果を踏まえ、文化活動全体の底上げをし、地域と人を文化でつなぐアートマネジメント人材や新たな文化創造の担い手の育成を目指した。		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

津山国際総合音楽祭		担当課	文化課
実施結果と成果	幅広い音楽分野、多彩なプログラム、特徴的なテーマ設定によるコンサート等の開催により、市民が本物の音楽に触れ、交流し地域の音楽文化振興を図ることができた。 また、津山市の文化度を広く内外に発信し、地域内の宿泊・交通・飲食産業等に一定の経済波及効果を生むことができた。音楽祭の開催は、まちのイメージを高め、付加価値をもたらし、社会・経済発展の基盤をなすものであった。		
今後の課題と方向性	クラシック中心で敷居が高い等のイメージが強く、市民が参加しやすいプログラム構成について、考えていく必要がある。		
		自己評価	A

文化事業の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の自主的な創造活動の支援と発表・鑑賞機会の提供を目的として、西東三鬼顕彰事業、ふるさと俳句投句函の設置、津山市写真展、津山川柳大会、津山文化教室、学校での俳句教室、各文化センター自主事業などの文化振興事業の推進を行なった。なお、事業実施にあたっては広く市民にPRを心掛け、多くの市民が文化芸術に触れる機会の充実を図った。		
今後の課題と方向性	これまでの芸術文化事業の充実を図るとともに、新しい事業の展開や各機関と連携をとり、参加者・応募者の増加などに向けた取り組みを工夫していく。		
		自己評価	B

文化活動への支援		担当課	文化課
実施結果と成果	津山市文化連盟や(公財)津山文化振興財団などの文化団体への支援を行い、市民の主体的な芸術文化活動の活性化を図った。津山市文化連盟では、文化講演会や芸術文化祭、歴史めぐりなどを開催、また、地域愛の醸成や津山市文化芸術激励金を活用して、文化活動の活性化及び人材育成を図った。		
今後の課題と方向性	高齢化社会の到来を迎え、市民ニーズを踏まえた芸術文化活動の展開や人材育成を視野に入れた事業に取り組み、また津山市文化振興基金の活用の検討をする。		
		自己評価	B

推進体制の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	文化の推進に向けて、県、(公財)岡山県文化連盟、津山市文化連盟、(公財)津山文化振興財団などと連携強化を図り、津山市の文化行政の推進体制の充実に努めた。		
今後の課題と方向性	市内で活動する市民・文化団体・NPO団体・企業などとの連携を図るため、推進体制を強化し、若い人も気軽に参加しやすい文化事業に取り組む。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
第10回津山国際総合音楽祭	幅広いジャンルのコンサートや市民参加のコンサートなど、多彩なプログラムにより構成される第10回津山国際総合音楽祭を開催した。  【プレ期間】 H29.9.3～10.20 【本期間】 H29.10.21～11.26	52,024	文化課

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
芸術文化の振興 西東三鬼賞投句数	4,071句/年	4,309句/年	4,200句/年	184.5	102.6	津山市出身の俳人「西東三鬼」の業績を顕彰し、文芸を振興することにより、広く全国に「三鬼＝現代俳句の街津山」を発信するため、全国から作品を募集し、優秀作品を表彰する。

市民総合音楽祭出演者	1,190人/年	995人/年	1,200人/年	1950.0	82.9	3年に1度開催されており、プロとアマとの出会いの場をつくり出す市民参加型の音楽祭で、過去10回行なってきたが、今後については検討が必要。
芸術・文化事業への後援件数〔教育委員会〕	110件/年	96件/年	120件/年	140.0	80.0	各事業への後援を積極的に行い、芸術文化活動の推進を図っている。また、他部署に申請された事業についての情報共有が必要。

## 【項目の総合評価】

イ 文化環境の整備		担当課	文化課
施策の概要	文化センターなどの公共ホールにおいては、施設の規模や機能に応じた活用や市民が利用しやすい運営やサービス強化を指導し、優秀な芸術活動の鑑賞機会の提供を行い、文化芸術の拠点としての充実を図った。		
評価	公共ホールにおいて、来館者数が今年度は増加した。今後においても、市民ニーズを踏まえた魅力ある自主企画や講演会の開催などにより文化芸術の拠点としての充実を図るとともに、老朽化した施設・設備を計画的に更新して、市民が利用しやすい環境づくりを目指した。		
		自己評価	B

## 【主な取組の実施結果と成果】

美術館・博物館整備事業		担当課	文化課
実施結果と成果	「津山市美術館構想審議会」からの答申を受け、城下地区を重点候補地として用地検討をしているが、国際ホテル移転等の影響もあり事業全体としては、進展していない。		
今後の課題と方向性	事業の方向性について検討が必要。		
		自己評価	B

津山文化センター整備事業		担当課	文化課
実施結果と成果	開館後50年が経過し、施設・設備の老朽化が進んでおり、平成27年に耐震診断を行なった結果、耐震化促進法に適合する施設として、大規模改修に取り組む。平成29年度に基本設計を行っており、平成30年度は実施設計・施工予定。		
今後の課題と方向性	平成32年3月の完成に向け、改修内容の確定・工期の管理が重要である。		
		自己評価	B

旧妹尾銀行林田支店（旧洋学資料館）活用事業		担当課	文化課
実施結果と成果	本市の指定文化財である旧洋学資料館を新たな発信・交流基地とし、また、観光プログラムと連携し、本市が進める地方創生の滞在型観光のまちづくりの柱の一つとして整備した。		
今後の課題と方向性	平成30年10月から指定管理による施設管理が開始。また、施設を中心としたアートとデザインをテーマとしたイベントを開催する新たな事業も開始する中で、さまざまな調整等が必要となる。		
		自己評価	B

知新館活用事業		担当課	文化課
実施結果と成果	鶴山塾移転候補地となっており、活用についての協議は中断している状況。		
今後の課題と方向性	鶴山塾移転計画等の動向を踏まえながら進めていく。		
		自己評価	B

文化施設の利用促進と整備		担当課	文化課
実施結果と成果	文化センターなど4つの公共ホールには、指定管理者制度を導入しており、住民サービスの向上や効率的な施設管理が図られるよう指導している。各施設利用者数は増加した。 また、安全で快適な施設利用を図るため、小規模修繕及び備品更新を適宜行った。 津山文化センターにおいては、耐震補強及び大規模改修のための基本設計を実施した。		
今後の課題と方向性	「津山市公共施設マネジメント基本方針」に基づいた計画的な施設改修整備やソフト事業の積極的な推進により、施設利用者数の増加を図っていく。 また、各施設共に、老朽化が進んでおり修繕費用の捻出に苦慮している。		
		自己評価	B

文化情報の収集と発信・提供		担当課	文化課
実施結果と成果	市民の多彩で活発な文化活動を促進し、優れた芸術作品の鑑賞機会充実のため、市内4ホールの最新情報を津山市HPなどで公開したり、各指定管理者が独自のネットワークやSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）・季刊誌・チラシの配布を行ない、ホール事業のさらなる発信に努めた。		
今後の課題と方向性	文化の発信拠点として、広く文化情報の提供・発信を行うため、広報紙やチラシなどの紙面の活用やインターネット等の電子メディアを活用し、市内外への継続的な発信に取り組む。情報の発信に際しては、利用者の視点に立ち、求められている情報を機会を捉えて発信する。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山文化センター整備事業	津山文化センターの耐震補強及び大規模改修工事に向けて、「津山文化センター整備方針」に基づき、基本計画及び基本設計を行った。	226,000	文化課

旧洋学資料館活用事業 (アート&デザイン賑わい拠点整備事業)	平成21年3月まで津山洋学資料館として利用されていた旧妹尾銀行林田支店(市指定重要文化財)をアートとデザインをコンセプトにした賑わい拠点施設に整備するため、設計及び工事を行った。	77,081	文化課
滞在型観光拠点整備事業 (津山の洋学)	洋学資料館及び箕作阮甫旧宅に多国語音声案内機能等を整備し、来館者の利便を図った。	3,399	文化課

### 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
公共文化ホールの活用 公共文化ホール利用者数 〔累計〕	188,000人	198,372人	200,000人	86.4	99.2	毎年発生する修繕案件について、全てについては対応できていない状態であり、年次的な修繕計画を立てる必要がある。

(4)歴史文化の継承と文化財の保存・活用	自己評価	B
----------------------	------	---

## 【項目の総合評価】

ア 文化財の保存と活用		担当課	文化課 歴史まちづくり推進室
施策の概要	文化財を後世に継承し、その保護・保存を図っていくため、各地域の文化財の調査、研究を推し進め、文化財保護のマスタープランである「津山市歴史文化基本構想」を策定する。文化財で重要なものは指定や登録をおこない保護すると共に文化財の活用についても検討する。また、文化財の調査研究成果などは講演会や説明会で広く公開に努める。		
評価	文化財の保存と活用を推進するため、歴史文化基本構想の策定に取りかかった。文化財の修理事業や史跡津山城跡の整備事業、重伝建地区の建物修理・修景事業を実施し、文化財修理事業などの現地説明会を開催する事で、文化財保護の啓発にも取り組んだ。		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

調査研究と保護施策の推進		担当課	文化課
実施結果と成果	文化財保護のマスタープランである、「歴史文化基本構想」の策定に、地域の団体と協働しながら取りかかった。		
今後の課題と方向性	地域の協力を得ながら実施しているが、市内全域の文化財調査を網羅する必要があり、今後も文化財指定などの保護策を推進させる。		
		自己評価	A

文化財の公開と学習機会の充実		担当課	文化課
実施結果と成果	史跡津山城跡の整備事業や高野神社本殿屋根修理事業、開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に伴う現地説明会を開催し、出前講座の実施など広く市民に公開した。		
今後の課題と方向性	現地説明会や講演会を開催し、一人でも多くの方に参加してもらうための周知方法などを工夫する。		
		自己評価	B

指定文化財の保存修理と整備		担当課	文化課
実施結果と成果	県指定高野神社本殿屋根の修理事業などに取りかかり、史跡津山城跡の第期整備計画にそった整備事業、史跡美作国分寺跡の公有化事業、京橋門跡の公園整備事業を実施した。		
今後の課題と方向性	史跡津山城跡や史跡美作国分寺跡の整備事業、文化財の保存修理事業を計画的に実施する。		
		自己評価	B

市民や関係部局、団体との連携		担当課	文化課
実施結果と成果	文化財の保存管理のため地元町内会や保存会に委託して、史跡の草刈り事業などを実施した。		
今後の課題と方向性	関係団体などとの連携を今後も強化する。		
		自己評価	B

歴史資産の保存と町並み景観の整備		担当課	文化課 歴史まちづくり推進室
実施結果と成果	平成25年8月に国の重要伝統的建造物群保存地区へ選定された城東伝統的建造物群保存地区は、平成29年度は修理7件、修景1件を実施した。武家屋敷については修景1件を実施。城西地区については重伝建選定にむけて建物の調査を開始した。また、津山市景観計画に基づき、特に良好な景観を形成する必要がある区域を景観計画重点区域とし、平成29年度は届出件数47件（うち景観形成重点地区10件）に対し、指導を行った。		
今後の課題と方向性	町並み景観向上のための歴史的風致維持向上計画における重点区域内において修理・修景事業を計画的に進め、歴史的風致の維持向上に努めるとともに津山市景観計画に基づき、良好な景観を維持するべく努める。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
津山城跡保存整備事業	「史跡津山城跡保存整備計画」に基づき、裏中門、裏下門周辺の整備事業を実施。	19,150	文化課
美作国分寺跡公有化事業	史跡指定地の内2筆(1,994㎡)を公有化。 (公有化率92%)	25,092	文化課
指定文化財等保存管理事業	県指定高野神社本殿屋根修理事業、国指定中山神社防災設備整備事業を実施。	17,549	文化課
京橋門跡公園整備事業	京橋門跡の公園整備工事を実施。	12,693	文化課
歴史文化基本構想策定事業	文化財保護施策のマスタープランである歴史文化基本構想策定に取りかかった。	3,230	文化課
重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	重伝建地区内の伝統的建造物の修理及びその他の建造物の修景を行った。	51,610	歴史まちづくり推進室

重要伝統的建造物群保存地区防災計画策定事業	城東地区内での災害を防ぐための計画について、現在計画の策定に取り組んでおり、平成30年度には、策定を完了する予定としている。	1,998	歴史まちづくり推進室
-----------------------	--	-------	------------

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名) 事業指標(内容)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
文化財の指定・登録 指定及び登録文化財すべての件数〔累計〕	218件	218件	230件	0.0	94.8	H29年度は新規指定が無かったが、今後も保護策に務める。
伝建地区景観の整備 建造物の修理修景件数【修理】	11件	18件	37件	26.9	48.6	城東重要伝統的建造物群保存地区において、伝統的建造物の修理を計画的に進める。
建造物の修理修景件数【修景】	2件	3件	14件	8.3	21.4	町並み景観向上のための修景事業を計画的に進め、歴史的風致の維持向上に努める。

## 【項目の総合評価】

イ 郷土史学習の推進		担当課	文化課 津山市史編さん室
施策の概要	<p>市史編さん事業 刊行に向けての資料調査の進展と評価、調査成果の蓄積、新修津山市史別巻『つやまの民話』の刊行。 学術研究の成果にもとづいた学習機会の提供 外部講師等による研究成果の紹介、博物館・洋学資料館主催の教育普及事業、職員派遣による講演、印刷物による研究成果の公開など。 郷土を大切に作る心の醸成 博物館・洋学資料館の各種講座による郷土史学習と先人の事績の紹介。 地域の学習資源の活用 博物館収蔵資料のデジタル化・教材化への取り組み。</p>		
評価	<p>今後の展開を視野に入れて考えた時、博物館や洋学資料館および市史編さん室と学校・地域とのさらなる連携が重要不可欠になると想定されるが、現状では各館・室ともに可能な限りの外部協力に努めており、事業の継続実施による実績と併せ、一定レベルの評価を得ていると判断する。</p>		
		自己評価	A

## 【主な取組の実施結果と成果】

市史編さん事業		担当課	津山市史編さん室
実施結果と成果	<p>前年度に引き続いて各専門部会で資料調査を継続的に行い、その調査に基づき新修津山市史の本編各巻の内容構成の検討や掲載資料候補の選定が進んでいる。 調査成果の一部は「津山市史だより」第9～11号および「津山市史研究」第4号などに発表して市民に提供した。市史をテーマとして4回開催した美作学講座も好評で、多くの市民が郷土の歴史を学ぶことができた。 また、刊行計画に基づき、新修津山市史の別巻『つやまの民話』を平成29年度に刊行した。</p>		
今後の課題と方向性	<p>今後さらなる資料調査を行い、刊行スケジュールに沿って順次各巻の執筆・編集活動を進めていくこととなる。その過程では、編さん室単独での講座・講演会の開催も企画する必要がある。 また、本編刊行の本格化に伴い、刊行に係る事務手続の円滑かつ確実な遂行が課題となる。</p>		
		自己評価	B

学術研究の成果にもとづいた学習機会の提供		担当課	文化課
実施結果と成果	<p>郷土博物館では、耐震化事業への対応のため特別展は中止したが、展示以外の教育普及事業は従来と同様に以下のとおり実施した。開館以来の目玉事業である「津山松平藩町奉行日記」の24号の解説・出版、職員による研究成果を研究ノートとして発表している博物館だより「津博」第92～95号の発行、『広報つやま』連載の「津山の歴史あらかると」の執筆などである。また、外部団体からの依頼に応じて職員を派遣して実施する講座・講演は毎回好評で、口コミもあって近年は派遣回数が増える傾向にある。</p> <p>洋学資料館においては、洋学関係の研究者を招いての文化講演会を4月に開催し、上廣倫理財団との共催による歴史文化フォーラムを10月に開催した。また、館主催事業の企画展（年間4回）や1月に開催した学芸員らによるオムニバス講演会を通じて研究成果を直接市民に公開し、研究誌『一滴』や機関誌『洋学資料館』を通じて館の活動を広報・周知している。</p>		
今後の課題と方向性	<p>外部研究者との連携や、さまざまな媒体を通じて市民などに提供する成果・内容の質を高めるには、職員一人一人の能力の向上と情報が不可欠であり、専門的な研修機会の充実やさらなる研究体制の整備が求められる。</p> <p>また、わかりやすく表現・発表するプレゼンテーション能力も必須であり、今後はこうした面での研修も重要課題である。</p>		
		自己評価	B

郷土を大切に作る心の醸成		担当課	文化課
実施結果と成果	<p>郷土博物館では、小学生が弥生土器や勾玉・トンボ玉を作る体験を通じて郷土の歴史を楽しく学ぶことができる夏休み子ども歴史教室、成人向けには古文書の解説を通じて郷土の歴史・伝統・文化の理解を深めることのできる古文書講座や、史跡の散策を通じて郷土の文化財への再認識を図る美作の文化財めぐりを、開館以来の30年間にわたり継続して実施し、それぞれに多数の参加者・受講者を集めて好評を得ている。また、小学校からの依頼に応じて子どもたちの地域学習にも協力している。</p> <p>洋学資料館においては、来館時に学芸員による解説を詳細に行うことで郷土出身者の事績をわかりやすく伝え、また、小学生を対象とする宇田川榕菴の著した『舎密開宗』からの再現実験を通して、その人物や業績を紹介することに努めた。</p>		
今後の課題と方向性	<p>郷土愛を育むには、様々な体験や学習のできる上記の事業を継続して行う必要がある。加えて、子供向けには下記 の取り組みも活用し、教員との連携によって学習プログラムを十分に練り上げる必要もある。</p> <p>また、げんぼプロジェクトの対象外の小学校や中学・高校・高専などと連携しての出前授業の実施も模索・試行する取り組みや協働事業の実施など、関係団体との持続的かつ幅広い連携も必要である。</p>		
		自己評価	A

地域の学習資源の活用		担当課	文化課
実施結果と成果	郷土博物館収蔵資料の郷土史学習における活用策として、スカイツリー開業以来注目度が高まっている江戸一目図屏風の高精細なデジタルデータをネット上で公開しているほか、詳細な描写により出版物やテレビ番組への利用が多い津山藩の大名行列図の実寸大の複製巻物を当館での教員研修や児童の見学等で披露・説明し、学校の授業での利活用に向けて存在の周知を図っている。 また、全国的に利用頻度の高い津山松平藩江戸日記・江戸藩邸図の高精細デジタルデータを、館内のパソコンで閲覧できるようにしている。		
今後の課題と方向性	博物館が休館中ではあるが、学校や地域との連携の強化を進め、上記の学習用教材の存在自体をもっと広く周知する必要がある。また、調査等を通して新たな学習材料の発掘にも取り組んでゆく必要がある。		
		自己評価	B

## 【平成29年度主要事業の実施状況】

事業名	事業概要	決算額 (千円)	担当課
洋学史書籍刊行事業	津山の洋学全般を紹介する書籍を刊行し、情報発信を行う。平成29年度は書籍の構成・内容を検討した。	0	文化課
津山市史編さん事業	市内の歴史資料や民俗行事などの調査を実施し、研究を深めるとともに、その成果を「津山市史だより」第9～11号・「津山市史研究」第4号・講演会などを通じて公開。また、新修津山市史の別巻『つやまの民話』を刊行。	10,026	津山市史編さん室

## 【教育振興基本計画における重点取組の進捗状況】

取組(事業名)	基準値 (計画策定時) a	現況値 (H29数値) b	目標値 (H33) c	達成率及び進捗率		
				目標に対する 達成率(%) (b-a)/(c-a)	目標に対する 進捗率(%) (b/c)	課題・今後の方向性等
博物館等の利用 津山郷土博物館、津山洋学資料館、津山弥生の里文化財センター、歴史民俗資料館〔加茂、勝北、久米〕の年間利用者総数	25,000人	18,079人	28,000人	230.7	64.6	津山郷土博物館が耐震工事終了後の展示内容等の検討、民俗資料館(加茂、勝北、久米)については、今後どのような形としていくか協議が必要。

